

「第2次丹波市環境基本計画」改訂のためのアンケート調査結果 (速報集計)

目 次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の設計	1
3.	報告書を見る際の注意事項	1
II	市民アンケート調査結果	2
1.	回答者の属性	2
2.	地域の自然環境・生活環境について	4
3.	森林や農地・農産物について	11
4.	地球温暖化問題について	12
5.	環境保全活動について	14
6.	生ごみ処理について	20
7.	その他	22
III	事業所アンケート調査結果	24
1.	回答事業所の属性	24
2.	環境問題に関する取り組みについて	25
3.	環境教育・環境学習の実施状況について	31
4.	情報の入手、発信について	32

I 調査概要

1. 調査の目的

平成 29 年に策定した「第 2 次丹波市環境基本計画」の中間見直しの参考とするため、丹波市の環境に関する満足度や市民や事業所の取り組み状況、今後の課題などについて把握することを目的として調査を実施した。

2. 調査の設計

(1) 市民調査

- ・調査対象：丹波市内にお住まいの 18 歳以上の男女 1,000 人
- ・調査方法：無作為抽出による郵送配布一郵送回収
- ・調査期間：令和 3 年 9 月 6 日（月）～ 令和 3 年 9 月 21 日（火）
- ・回収数：423 票
- ・有効回収数：422 票（有効回収率：42.2%） ※9/22 到着分まで

(2) 事業所調査

- ・調査対象：丹波市内の事業所 100 事業所
- ・調査方法：無作為抽出による郵送配布一郵送回収
- ・調査期間：令和 3 年 9 月 6 日（月）～ 令和 3 年 9 月 21 日（火）
- ・回収数：30 票
- ・有効回収数：30 票（有効回収率：30.0%） ※9/22 到着分まで

3. 報告書を見る際の注意事項

○回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示してある。

○百分率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が 100%にならないことがある。

○1 つの質問に 2 つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が 100%を超える場合がある。

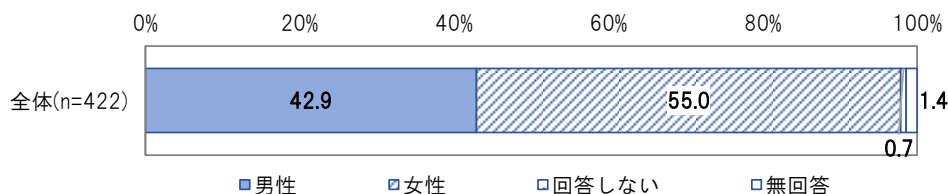
○グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

1. 回答者の属性

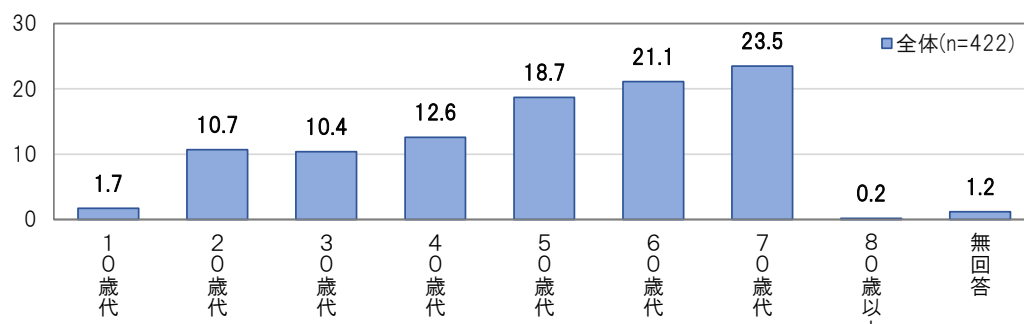
(1) 性別

- 回答者の性別は、「男性」が42.9%、「女性」が55.0%となっている。



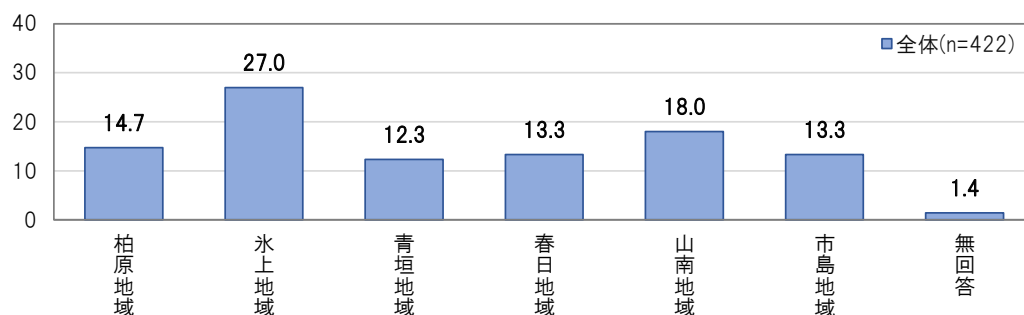
(2) 年代

- 回答者の年齢は、「70 歳代」が23.5%と最も高く、次いで「60 歳代」(21.1%)、「50 歳代」(18.7%)の順となっており、『50 歳以上』が6割以上を占めている。



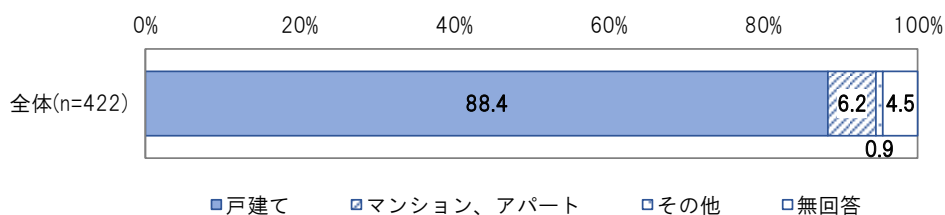
(3) 居住地

- 回答者の居住地は、「氷上地域」が27.0%と最も高く、次いで「山南地域」(18.0%)、「柏原地域」(14.7%)の順となっている。



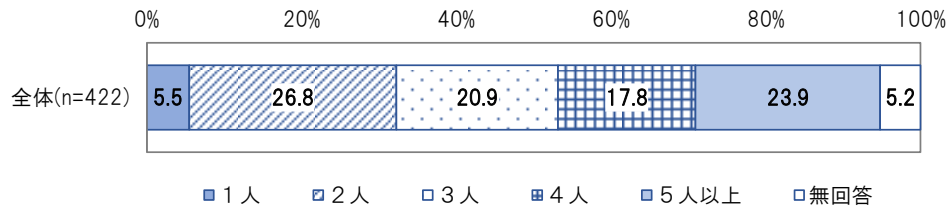
(4) 住宅の種別

- 回答者の住宅の種別は、「戸建て」が88.4%と大半を占めている。



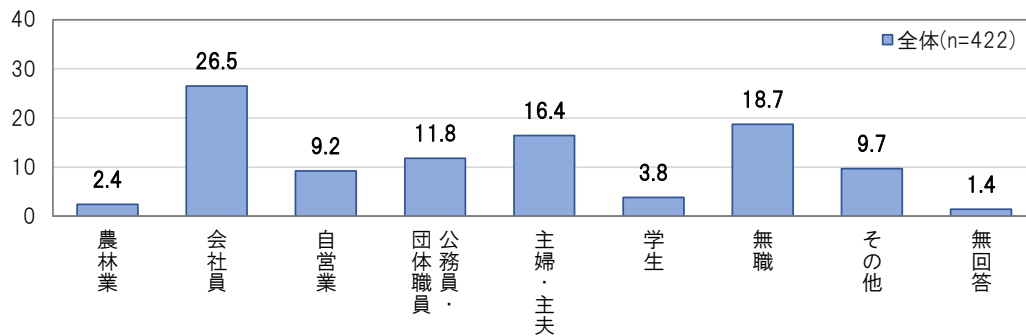
(5) 同居家族の人数

- 回答者の同居家族の人数は、「2人」が26.8%と最も高く、次いで「5人以上」(23.9%)、「3人」(20.9%)、「4人」(17.8%)の順となっている。



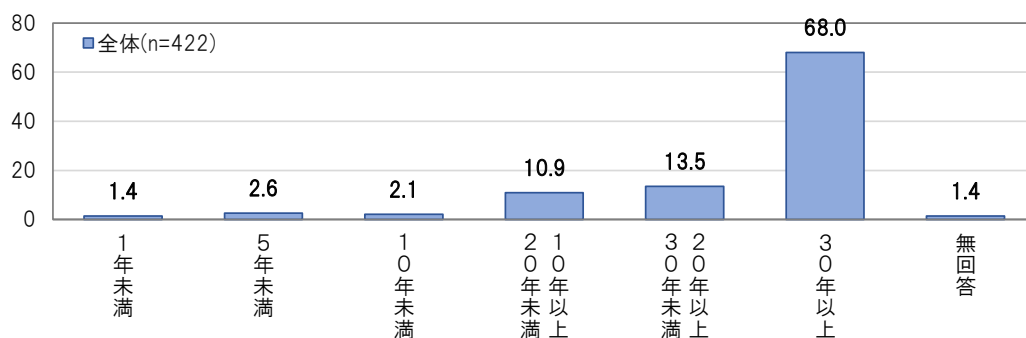
(6) 職業

- 回答者の職業は、「会社員」が26.5%と最も高く、次いで「無職」(18.7%)、「主婦・主夫」(16.4%)の順となっている。



(7) 丹波市での居住年数

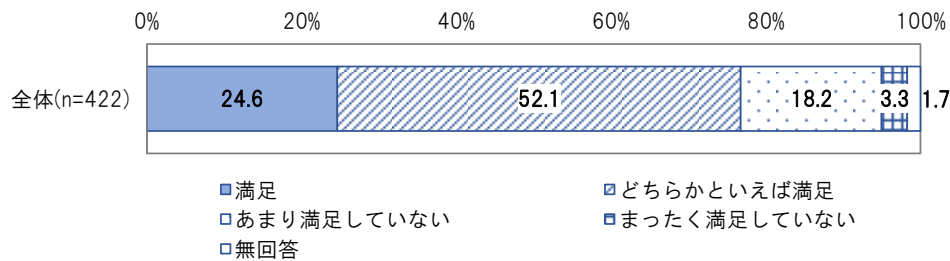
- 回答者の丹波市での居住年数は、「30年以上」が68.0%と最も高く、次いで「20年以上 30年未満」(13.5%)、「10年以上 20年未満」(10.9%)の順となっており、『20年以上』が8割以上を占めている。



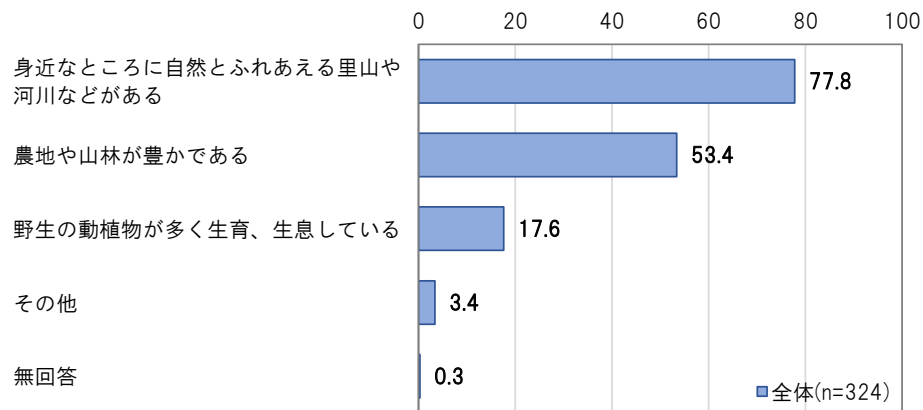
2. 地域の自然環境・生活環境について

(1) 住まいの周辺の自然環境について

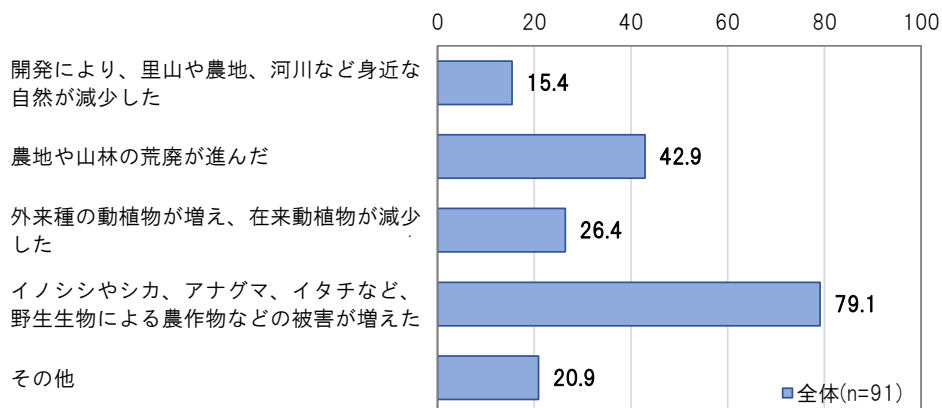
- ・住まいの周辺の自然環境については、「どちらかといえば満足」が52.1%と半数を超えて最も高く、「満足」(24.6%)と合わせると、満足している人が7割以上となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が2割以上となっている。
- ・満足している人の理由では、「身近なところに自然とふれあえる里山や河川などがある」が77.8%と最も高く、次いで「農地や山林が豊かである」(53.4%)の順となっている。
- ・満足していない人の理由では、「イノシシやシカ、アナグマ、イタチなど、野生生物による農作物などの被害が増えた」が79.1%と最も高く、次いで「農地や山林の荒廃が進んだ」(42.9%)の順となっている。



《満足している理由》

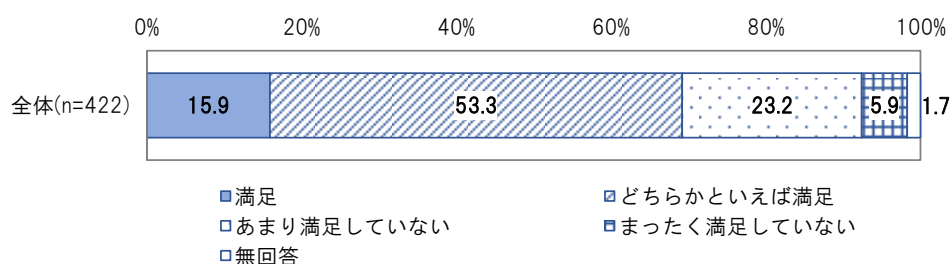


《満足していない理由》

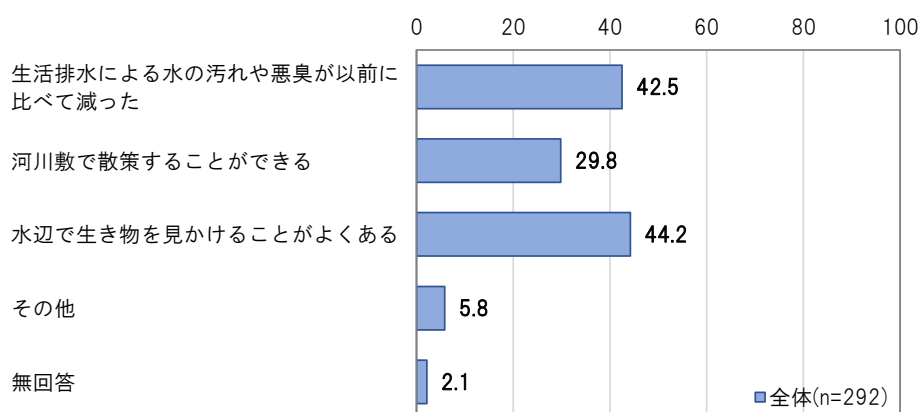


(2) 住まいの周辺の水路や河川などの水のきれいさについて

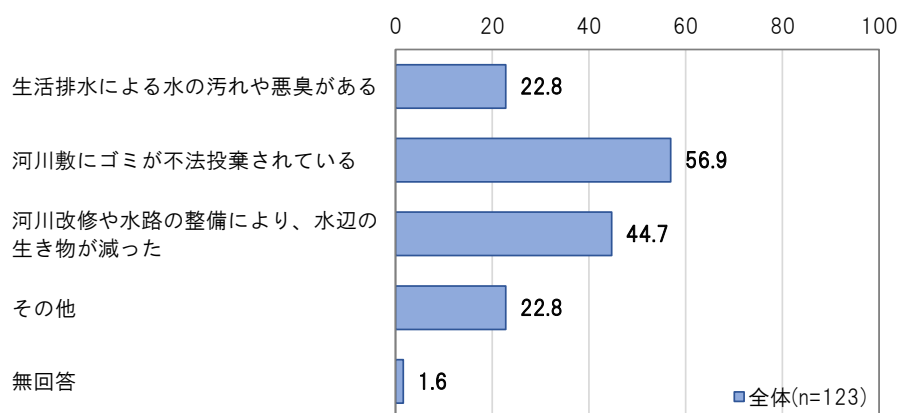
- 住まいの周辺の水路や河川などの水のきれいさについては、「どちらかといえば満足」が53.3%と半数を超えて最も高く、「満足」(15.9%)と合わせると、満足している人が約7割となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が約3割となっている。
- 満足している人の理由では、「水辺で生き物を見かけることがよくある」が44.2%と最も高く、次いで「生活排水による水の汚れや悪臭が以前に比べて減った」(42.5%)の順となっている。
- 満足していない人の理由では、「河川敷にゴミが不法投棄されている」が56.9%と最も高く、次いで「河川改修や水路の整備により、水辺の生き物が減った」(44.7%)の順となっている。



《満足している理由》

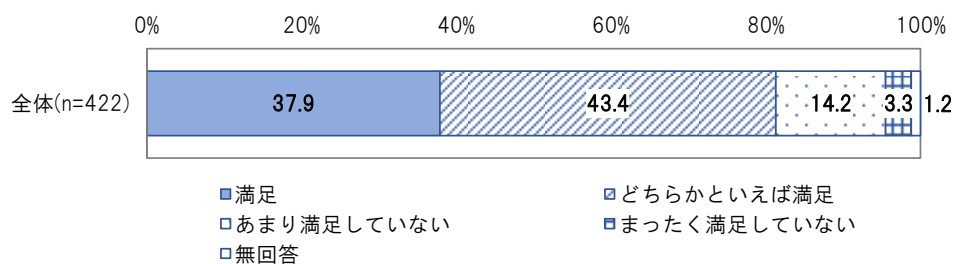


《満足していない理由》

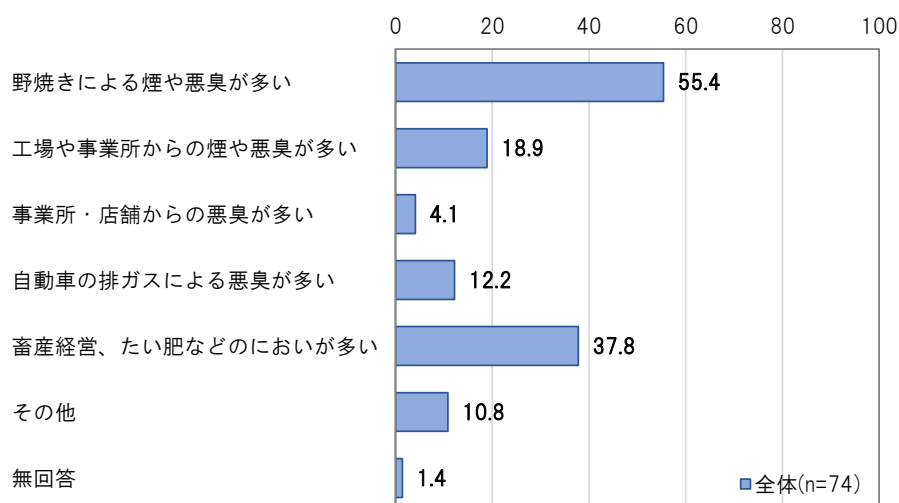


(3) 住まいの周辺の空気のきれいさについて

- ・住まいの周辺の空気のきれいさについては、「どちらかといえば満足」が43.4%と4割を超えて最も高く、「満足」(37.9%)と合わせると、満足している人が8割以上となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が2割近くとなっている。
- ・満足していない人の理由では、「野焼きによる煙や悪臭が多い」が55.4%と最も高く、次いで「畜産経営、たい肥などのにおいが多い」(37.8%)の順となっている。

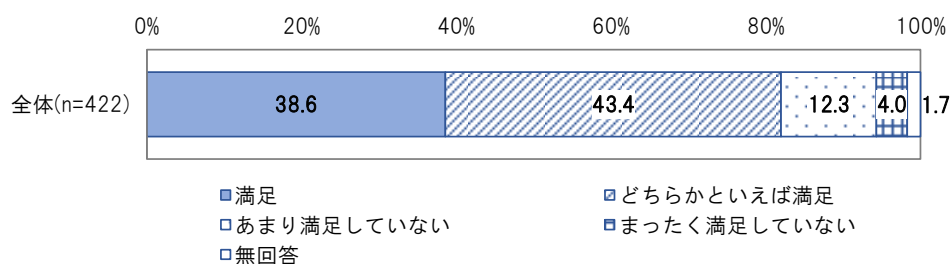


《満足していない理由》

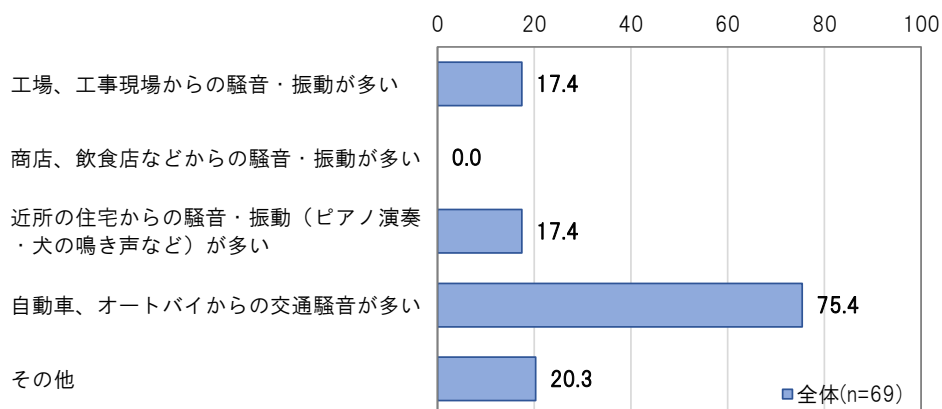


(4) 住まいの周辺の静けさについて

- 住まいの周辺の静けさについては、「どちらかといえば満足」が43.4%と4割を超えて最も高く、「満足」(38.6%)と合わせると、満足している人が8割以上となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が2割近くとなっている。
- 満足していない人の理由では、「自動車、オートバイからの交通騒音が多い」が75.4%と突出して高くなっている。

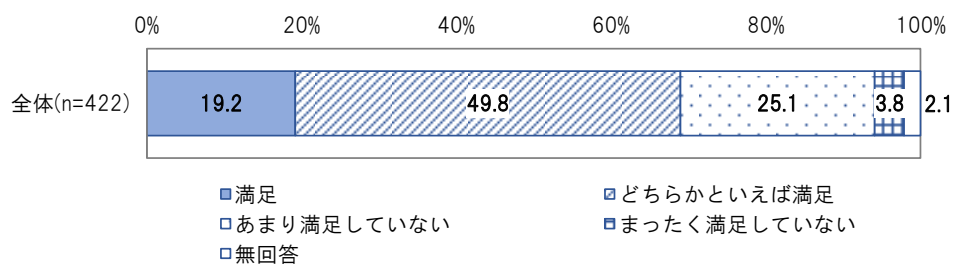


《満足していない理由》

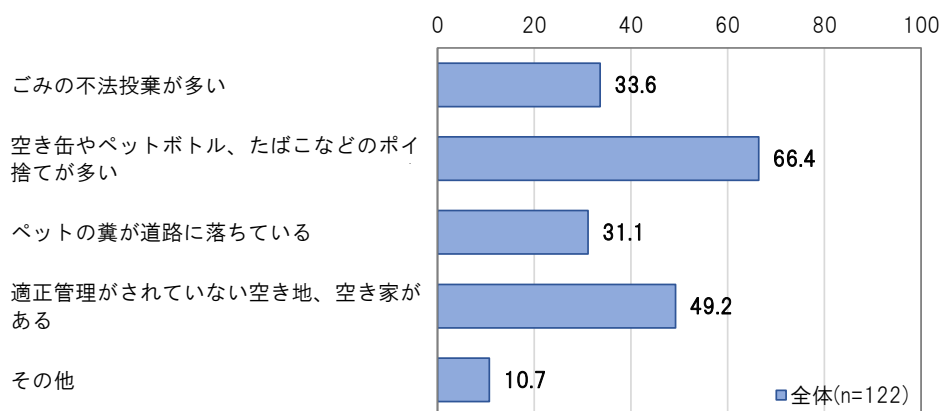


(5) 住まいの周辺の清潔さについて

- 住まいの周辺の清潔さについては、「どちらかといえば満足」が49.8%と約半数を占めて最も高く、「満足」(19.2%)と合わせると、満足している人が約7割となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が3割近くとなっている。
- 満足していない人の理由では、「空き缶やペットボトル、タバコなどのポイ捨てが多い」が66.4%と最も高く、次いで「適正管理がされていない空き地、空き家がある」(49.2%)の順となっている。

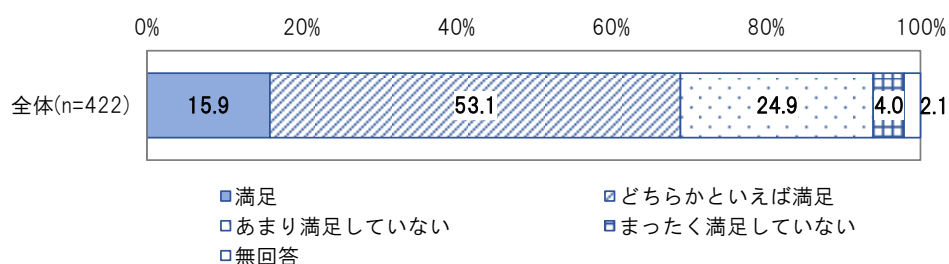


《満足していない理由》

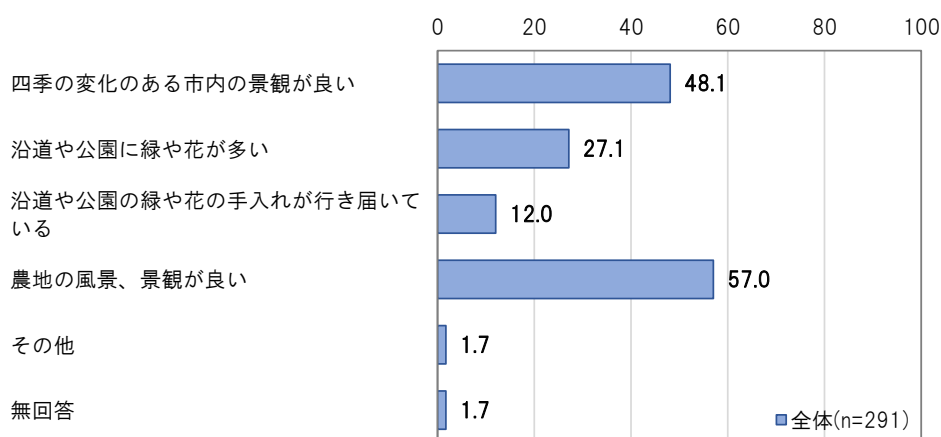


(6) 住まいの周辺の緑や公園、景観について

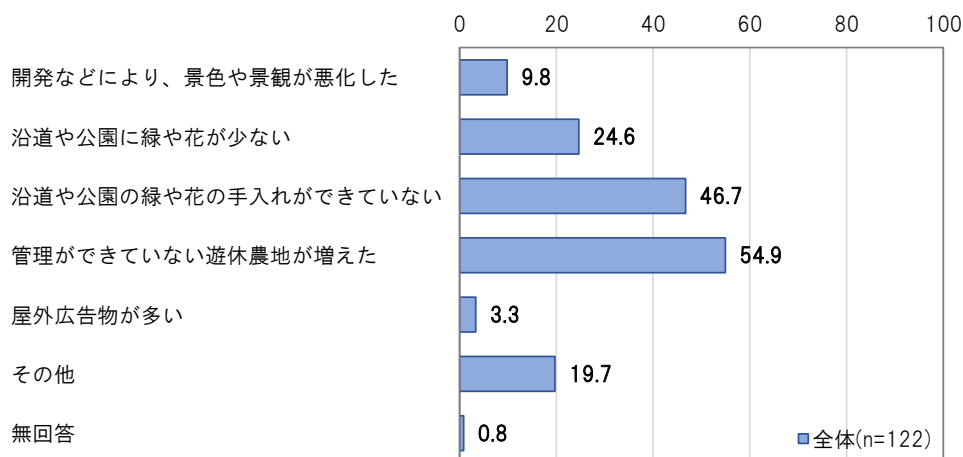
- ・住まいの周辺の緑や公園、景観については、「どちらかといえば満足」が53.1%と半数を超えて最も高く、「満足」(15.9%)と合わせると、満足している人が約7割となっている。一方で、『満足していない』(「あまり満足していない」+「まったく満足していない」)が3割近くとなっている。
- ・満足している人の理由では、「農地の風景、景観が良い」が57.0%と最も高く、次いで「四季の変化のある市内の景観が良い」(48.1%)の順となっている。
- ・満足していない人の理由では、「管理ができていない遊休農地が増えた」が54.9%と最も高く、次いで「沿道や公園の緑や花の手入れができていない」(46.7%)の順となっている。



《満足している理由》

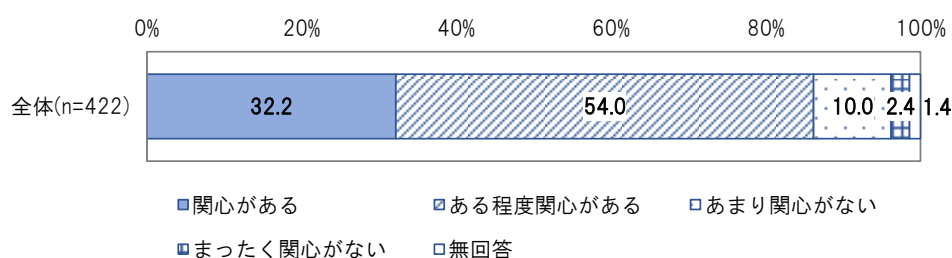


《満足していない理由》

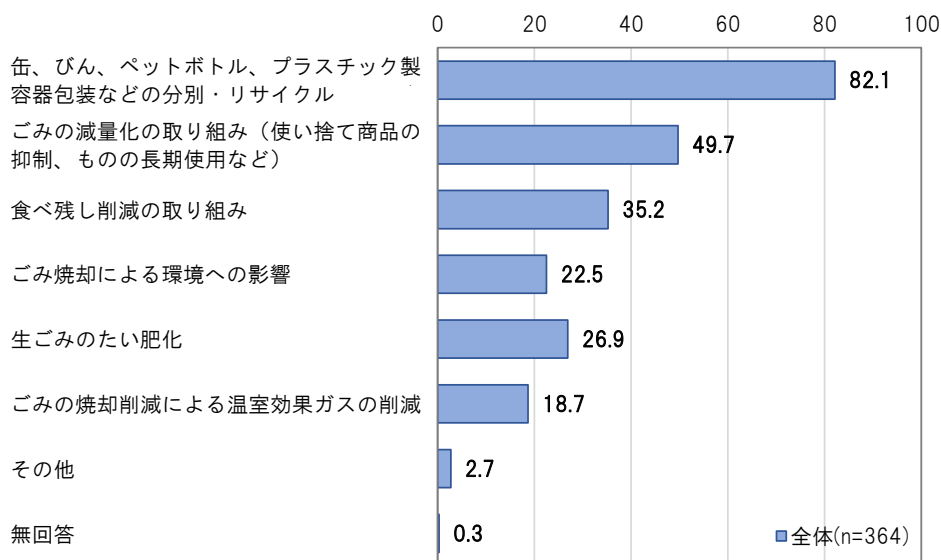


(7) ごみの分別・リサイクル、ごみの減量化について

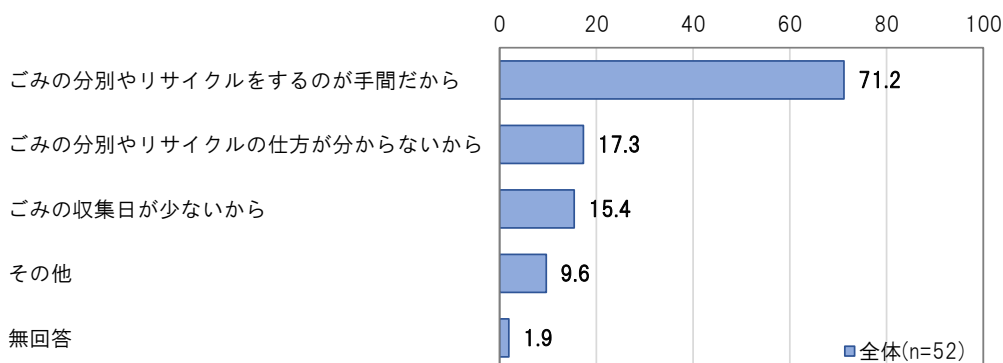
- ごみの分別・リサイクル、ごみの減量化については、「ある程度関心がある」が54.0%と半数を超えて最も高く、「関心がある」(32.2%)と合わせると、関心がある人が8割以上となっている。一方で、『関心がない』(「あまり関心がない」+「まったく関心がない」)が1割以上となっている。
- 関心のある人の関心のある内容では、「缶、びん、ペットボトル、プラスチック製容器包装などの分別・リサイクル」が82.1%と最も高く、次いで「ごみの減量化の取り組み(使い捨て商品の抑制、ものの長期使用など)」(49.7%)の順となっている。
- 関心がない人の理由では、「ごみの分別やリサイクルをするのが手間だから」が71.2%と突出して高くなっている。



《関心のある内容》



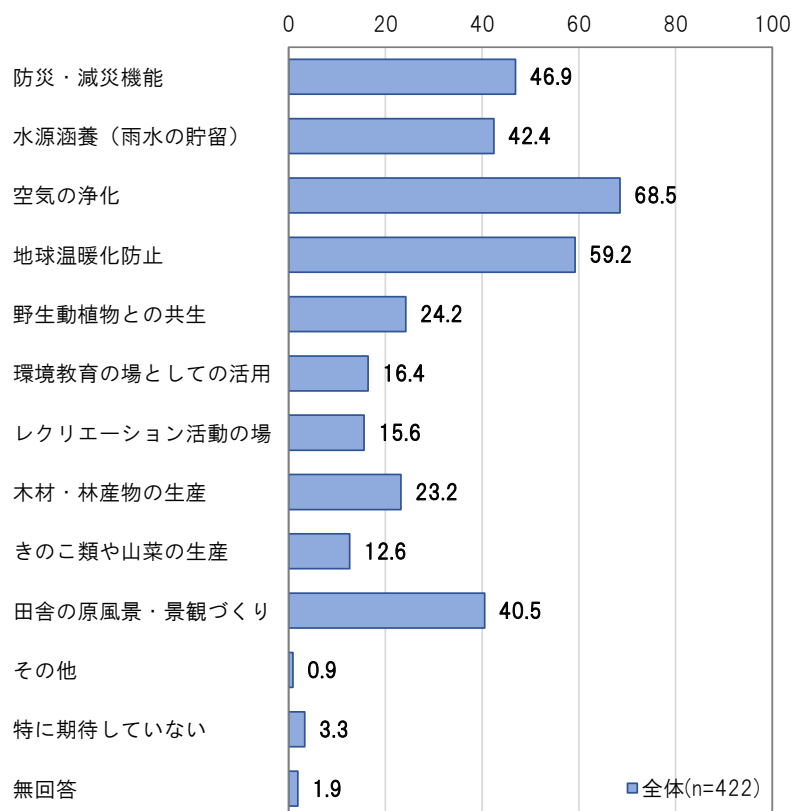
《関心がない理由》



3. 森林や農地・農産物について

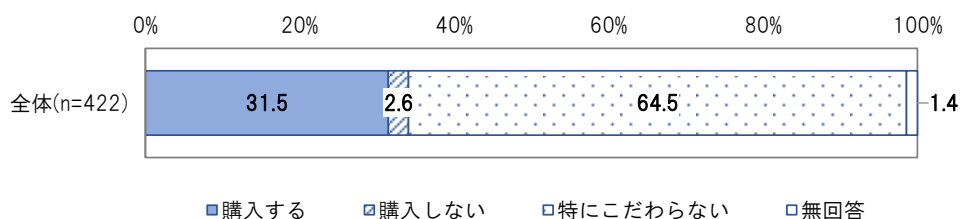
(1) 森林に期待する役割

- ・森林に期待する役割については、「空気の浄化」が68.5%と最も高く、次いで「地球温暖化防止」(59.2%)、「防災・減災機能」(46.9%)、「水源涵養(雨水の貯留)」(42.4%)、「田舎の原風景・景観づくり」(40.5%)の順となっている。



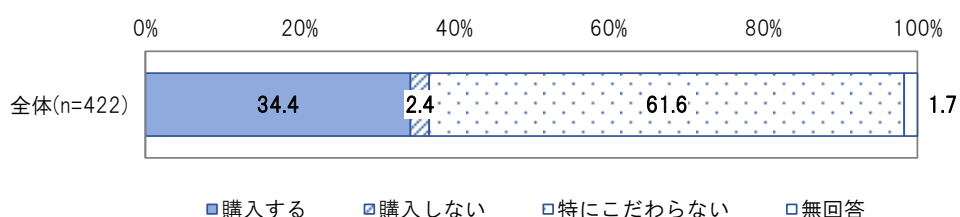
(2) 丹波市の農産物の購入について

- ・丹波市の農産物の購入については、「特にこだわらない」が64.5%と6割を超えて最も高く、「購入する」は3割程度となっている。



(3) 無農薬や有機栽培など、環境に配慮して作られた農産物の購入について

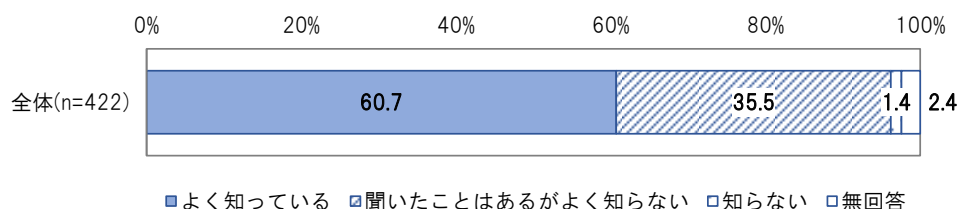
- ・環境に配慮して作られた農産物の購入については、「特にこだわらない」が61.6%と6割を超えて最も高く、「購入する」は3割程度となっている。



4. 地球温暖化問題について

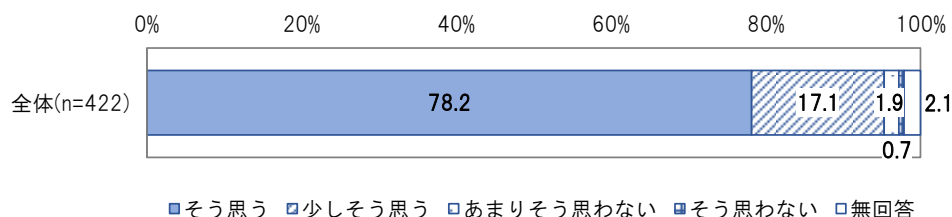
(1) 「地球温暖化」の認知度

- 地球温暖化については、「よく知っている」が60.7%と約6割を占めて最も高くなっているものの、「聞いたことはあるがよく知らない」(35.5%)と「知らない」(1.4%)を合わせると、知らない人が4割近くとなっている。



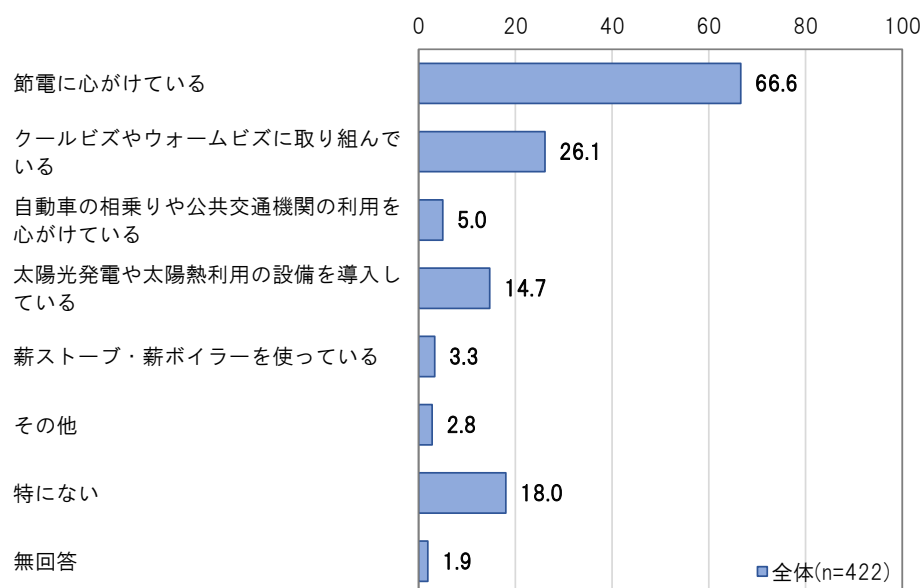
(2) 気象及び気候の極端な現象の発生頻度の高まりについて

- 気象及び気候の極端な現象の発生頻度の高まりについては、「そう思う」が78.2%と8割近くを占めて最も高く、「少しそう思う」(17.1%)と合わせると、ほぼ全員が気象及び気候の極端な現象の発生頻度の高まりを感じている結果となっている。



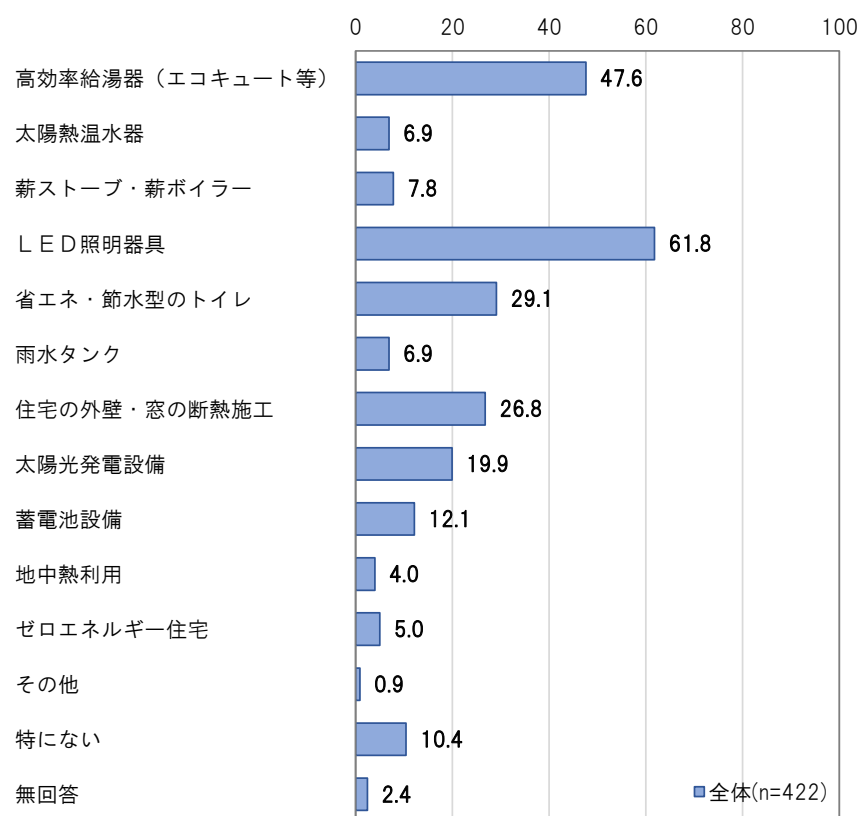
(3) 地球温暖化対策として普段行っている行動

- 地球温暖化対策として普段行っている行動については、「節電に心がけている」が66.6%と最も高く、次いで「クールビズやウォームビズに取り組んでいる」(26.1%)の順となっている。
- 一方で、「特にない」が18.0%と2割近くとなっている。

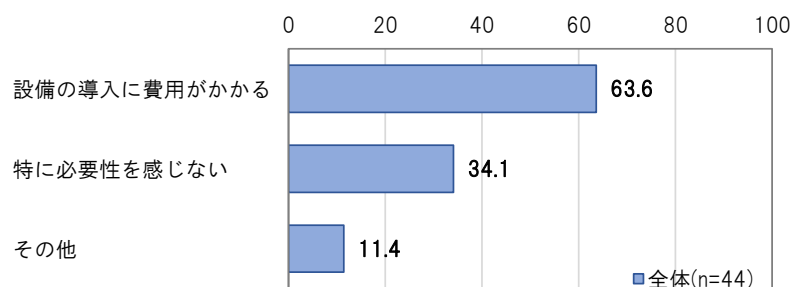


(4) 家庭で利用している、もしくは今後利用したい省エネルギーの設備

- 家庭で利用している、もしくは今後利用したい省エネルギーの設備については、「LED照明器具」が61.8%と最も高く、次いで「高効率給湯器（エコキュート等）」（47.6%）、「省エネ・節水型のトイレ」（29.1%）、「住宅の外壁・窓の断熱施工」（26.8%）の順となっている。
- 一方で、「特にない」が約1割となっている。その理由では、「設備の導入に費用がかかる」が63.6%と最も高く、次いで「特に必要性を感じない」（34.1%）となっている。



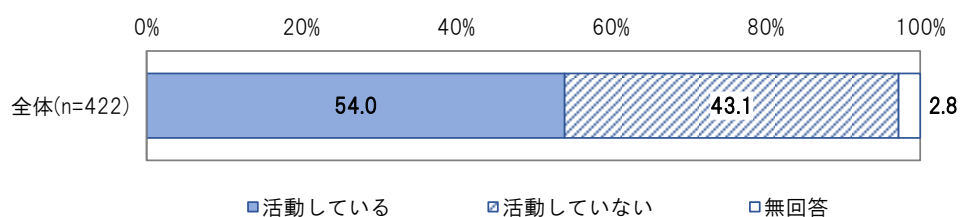
《利用している、もしくは今後利用したい省エネルギーの設備がない理由》



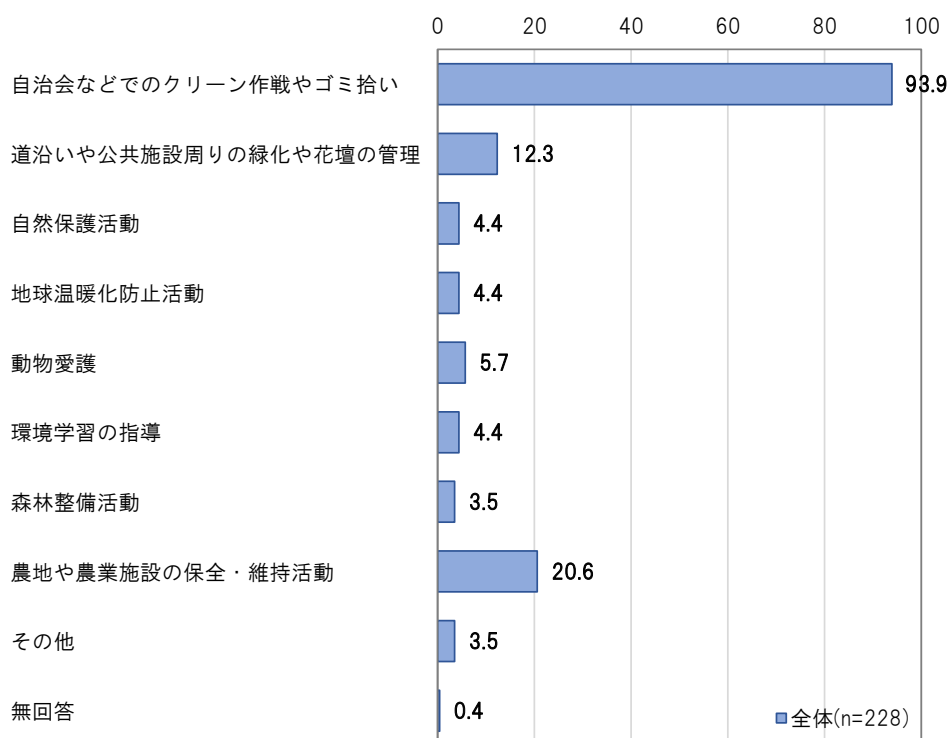
5. 環境保全活動について

(1) 環境をよくするための活動について

- 環境をよくするための活動については、「活動している」が 54.0%と半数を超えており、「活動していない」は 43.1%となっている。
- 活動している人の内容では、「自治会などでのクリーン作戦やゴミ拾い」が 93.9%とその他の項目と比べて突出して高くなっている。次いで、「農地や農業施設の保全・維持活動」(20.6%)、「道沿いや公共施設周りの緑化や花壇の管理」(12.3%)の順となっている。



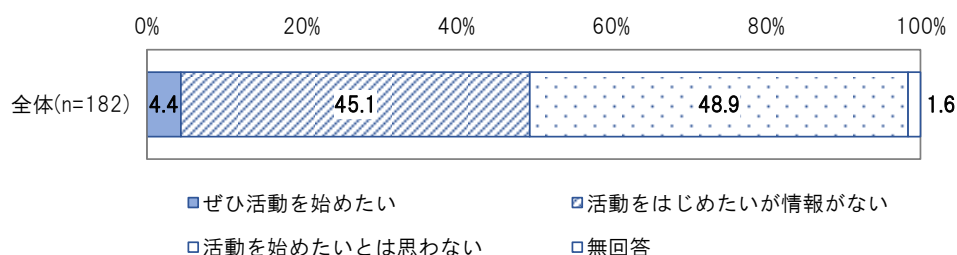
《活動している内容》



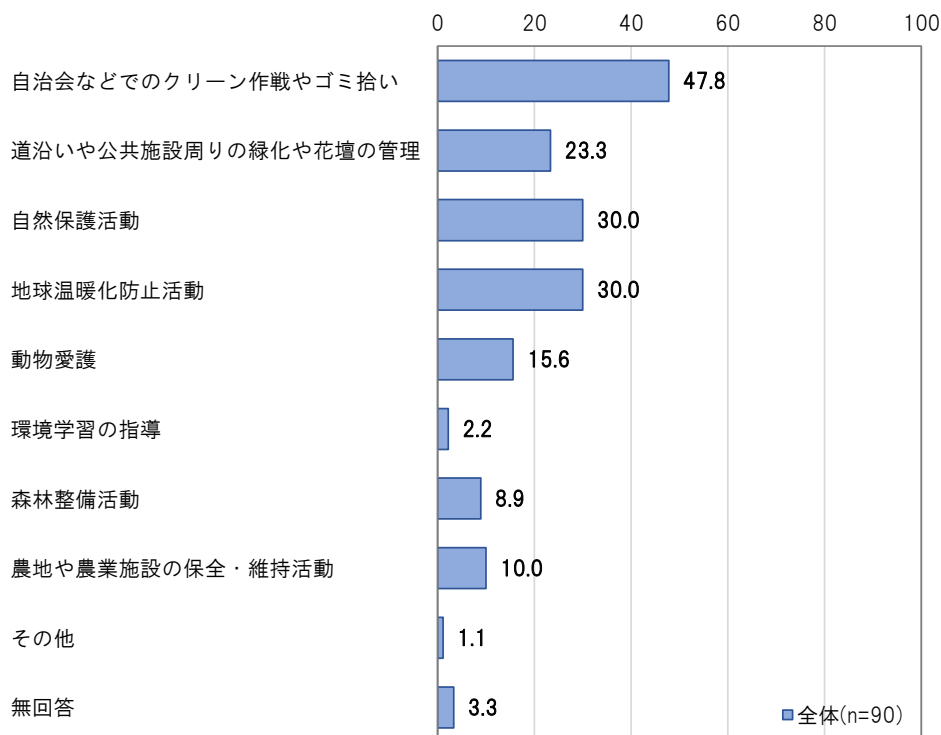
(2) 環境をよくするための活動への今後の参加意向

※(1)で「活動していない」と回答した人のみ

- 環境をよくするための活動への今後の参加意向については、「活動を始めたいとは思わない」が48.9%と半数近くを占めて最も高くなっている。
- 一方で、「ぜひ活動を始めたい」(4.4%)と「活動をはじめたいが情報が無い」(45.1%)を合わせた活動意向のある人は、約半数を占めている。
- 活動意向載る人の内容では、「自治会などでのクリーン作戦やゴミ拾い」が47.8%と最も高く、次いで「自然保護活動」及び「地球温暖化防止活動」(30.0%)、「道沿いや公共施設周りの緑化や花壇の管理」(23.3%)の順となっている。

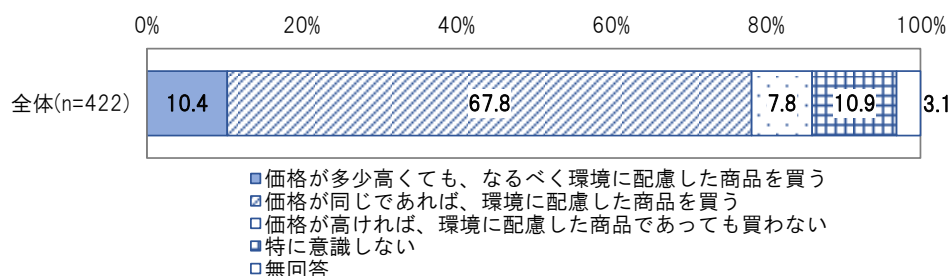


《これから始めたい活動の内容》



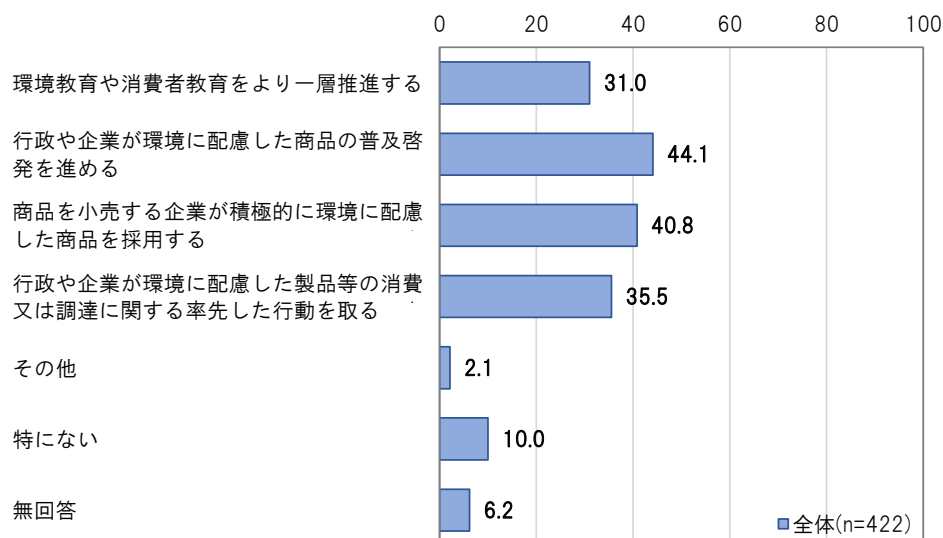
(3) 環境に配慮した商品を買う際の価格に対する考え

- 環境に配慮した商品を買う際の価格に対する考えについては、「価格が同じであれば、環境に配慮した商品を買う」が67.8%と7割近くを占めて最も高くなっており、「価格が多少高くても、なるべく環境に配慮した商品を買う」は約1割となっている。
- また、「特に意識しない」が10.9%と約1割となっている。



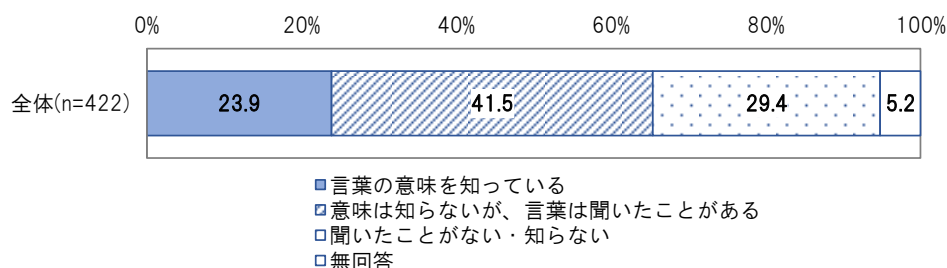
(4) 環境に配慮した商品の利用が進むための取り組み

- 環境に配慮した商品の利用が進むための取り組みについては、「行政や企業が環境に配慮した商品の普及啓発を進める」が44.1%と4割を超えて最も高く、次いで「商品を小売する企業が積極的に環境に配慮した商品を採用する」(40.8%)、「行政や企業が環境に配慮した製品等の消費又は調達に関する率先した行動を取る」(35.5%)の順となっている。



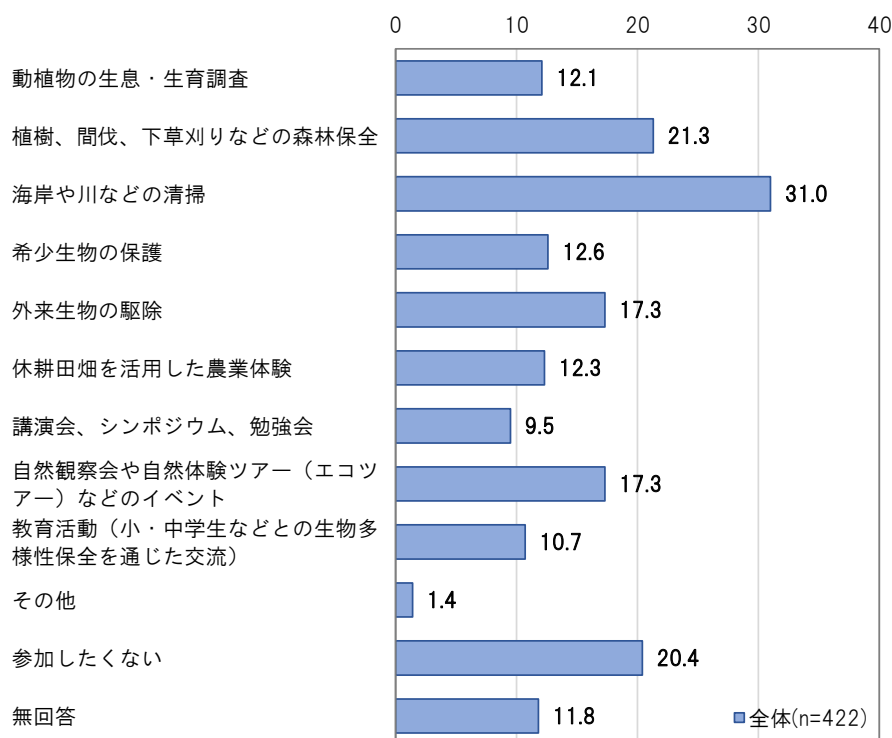
(5)「生物多様性」の認知度

- ・生物多様性については、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が41.5%と4割以上を占めて最も高く、「言葉の意味を知っている」(23.9%)と合わせると、言葉を知っている人が6割以上となっている。
- ・一方で、「聞いたことがない・知らない」が約3割となっている。



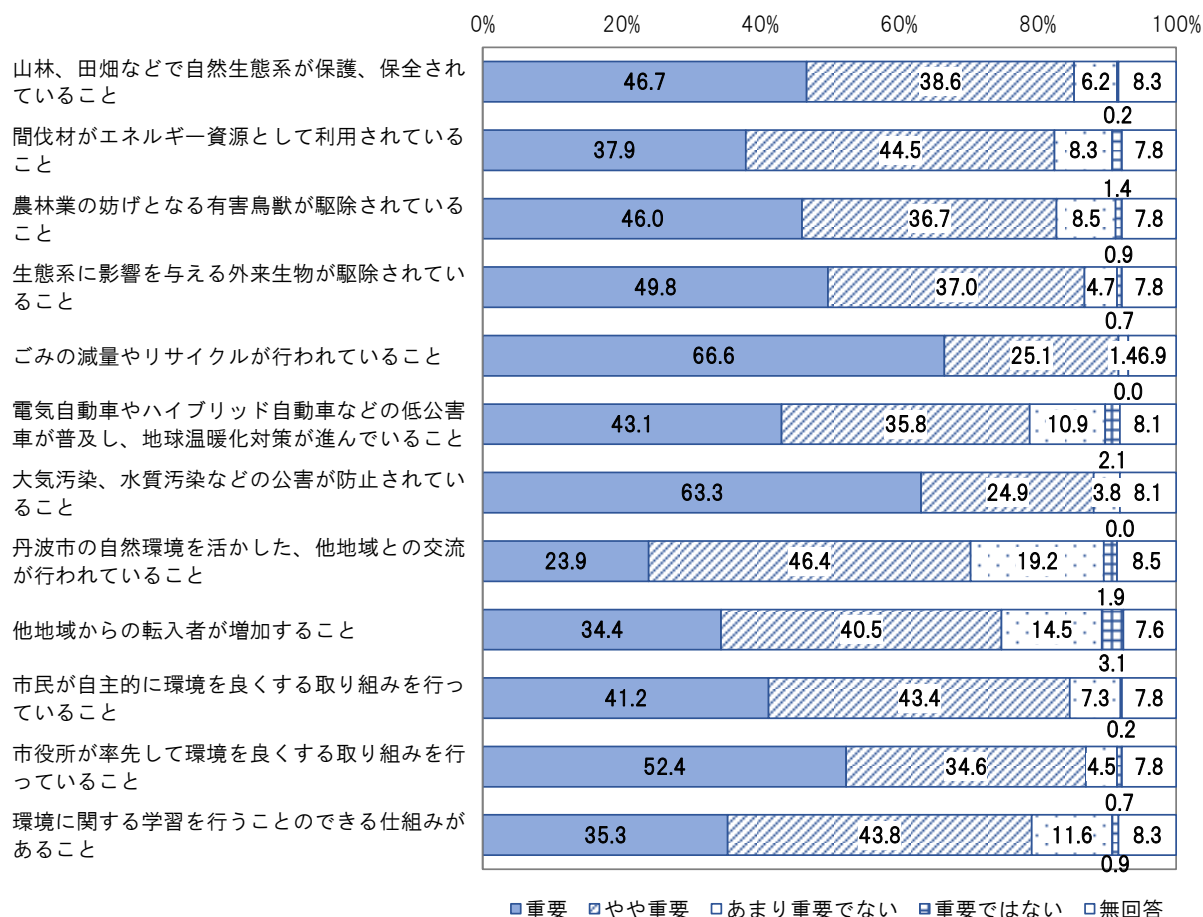
(6) 生物多様性を保全・利用するために参加してみたい活動

- ・生物多様性を保全・利用するために参加してみたい活動については、「海岸や川などの清掃」が31.0%と3割を超えて最も高く、次いで「植樹、間伐、下草刈りなどの森林保全」(21.3%)、「外来生物の駆除」及び「自然観察会や自然体験ツアー(エコツアー)などのイベント」(17.3%)の順となっている。



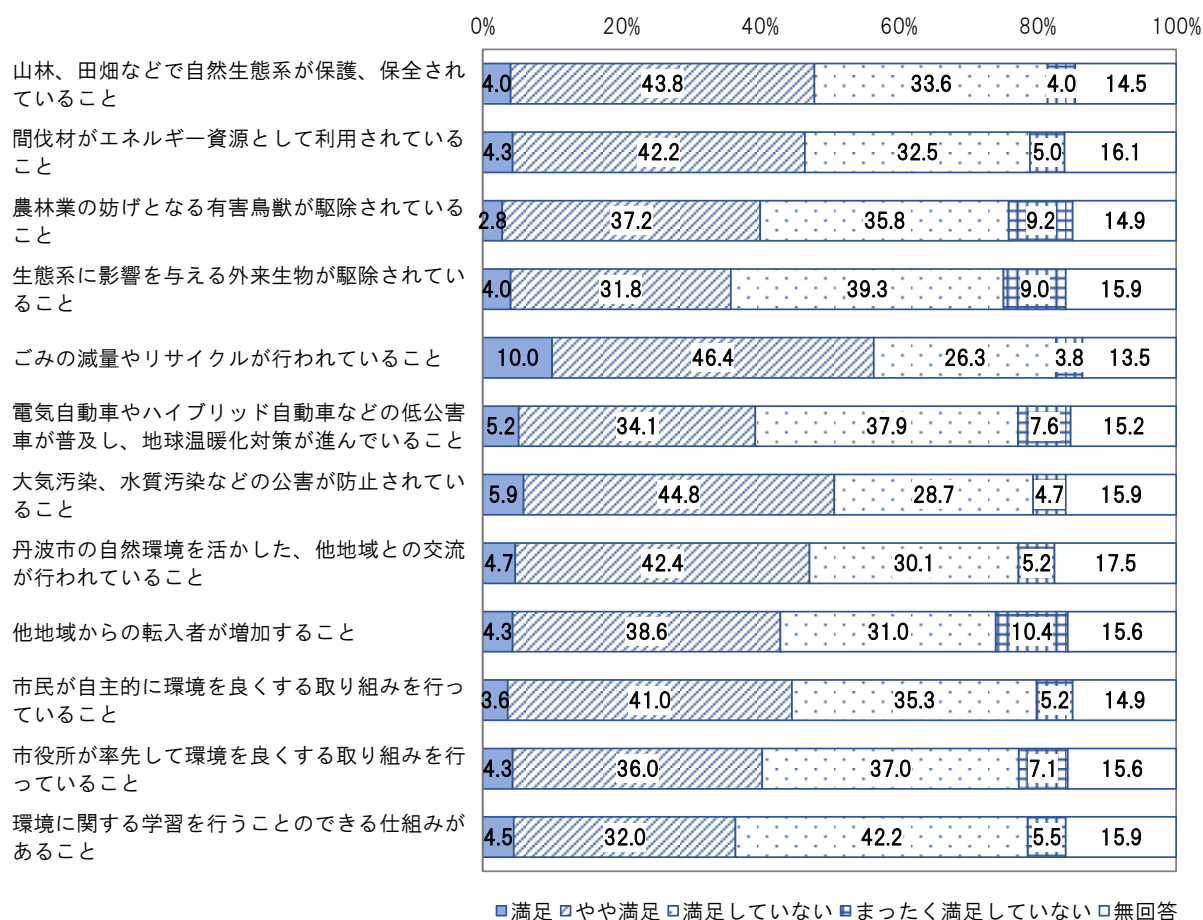
(7) 行政施策（丹波市の取り組み）の重要度

- 行政施策（丹波市の取り組み）の重要度については、「重要」と「やや重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“ごみの減量やリサイクルが行われていること”が91.7%と9割を超えて最も高く、次いで、“大気汚染、水質汚染などの公害が防止されていること”（88.2%）、“市役所が率先して環境を良くする取り組みを行っていること”（87.0%）、“生態系に影響を与える外来生物が駆除されていること”（86.8%）の順となっている。



（８）行政施策（丹波市の取り組み）の満足度

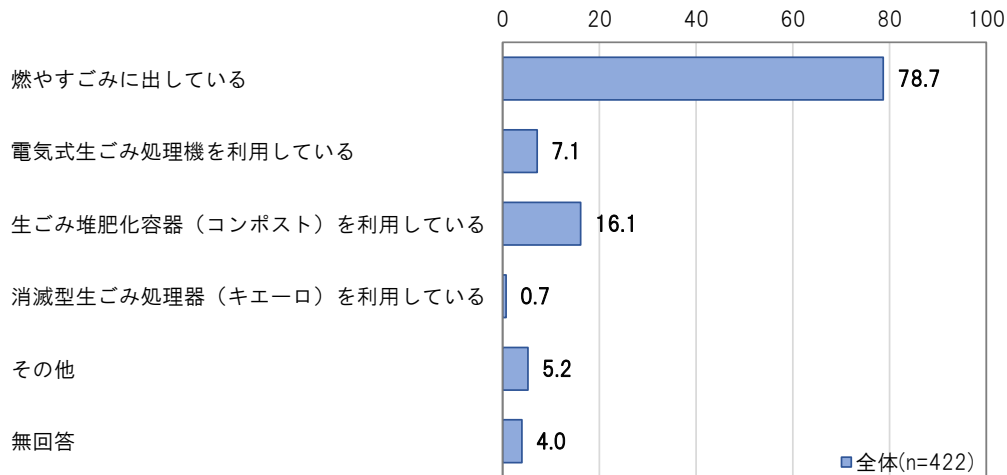
- 行政施策（丹波市の取り組み）の満足度については、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“ごみの減量やリサイクルが行われていること”が56.4%と最も高く、次いで、“大気汚染、水質汚染などの公害が防止されていること”（50.7%）となっており、その他の項目では半数未満となっている。
- 一方で、“生態系に影響を与える外来生物が駆除されていること”、“環境に関する学習を行うことのできる仕組みがあること”では、『満足していない』（「満足していない」＋「まったく満足していない」）が半数近くを占めて多くなっている。



6. 生ごみ処理について

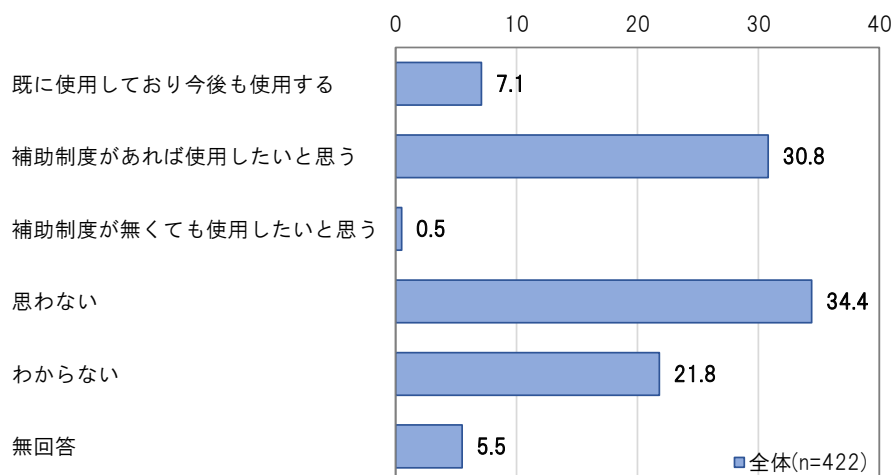
(1) 生ごみの処理方法

- ・生ごみの処理方法については、「燃やすごみに出している」が78.7%とその他の項目と比べて突出して高くなっている。次いで、「生ごみ堆肥化容器（コンポスト）を利用している」（16.1%）となっており、「電気式生ごみ処理機を利用している」（7.1%）、「消滅型生ごみ処理器（キエーロ）を利用している」（0.7%）と合わせると、生ごみ処理をしている人は2割程度となっている。



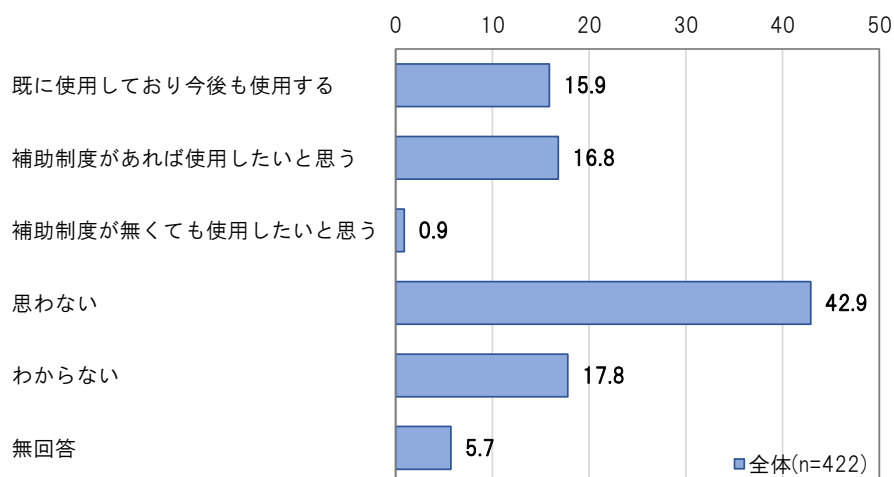
(2) 電気式生ごみ処理機の使用意向

- ・電気式生ごみ処理機の使用意向については、「思わない」が34.4%と最も高くなっている。
- ・次いで「補助制度があれば使用したいと思う」が30.8%と約3割を占め、「既に使用しており今後も使用する」（7.1%）と「補助制度が無くても使用したいと思う」（0.5%）を合わせた使用意向のある人は4割程度となっている。



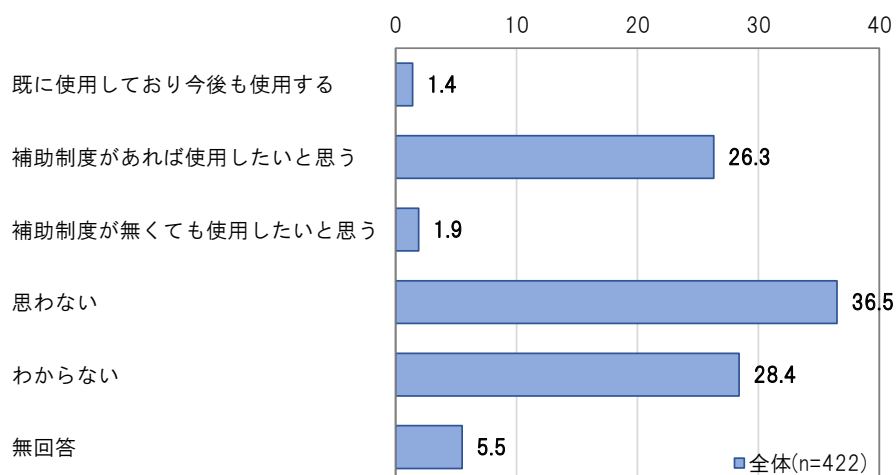
(3) 生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の使用意向

- ・生ごみ堆肥化容器（コンポスト）の使用意向については、「思わない」が42.9%と最も高くなっている。
- ・次いで「補助制度があれば使用したいと思う」（16.8%）、「既に使用しており今後も使用する」（15.9%）となっており、「補助制度が無くても使用したいと思う」（0.9%）を合わせた使用意向のある人は3割程度となっている。



(4) 消滅型生ごみ处理器（キエーロ）の使用意向

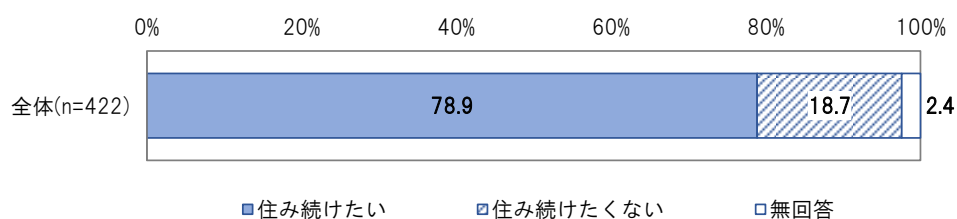
- ・消滅型生ごみ处理器（キエーロ）の使用意向については、「思わない」が36.5%と最も高くなっている。
- ・次いで「補助制度があれば使用したいと思う」が26.3%と2割以上を占め、「既に使用しており今後も使用する」（1.4%）と「補助制度が無くても使用したいと思う」（1.9%）を合わせた使用意向のある人は3割程度となっている。



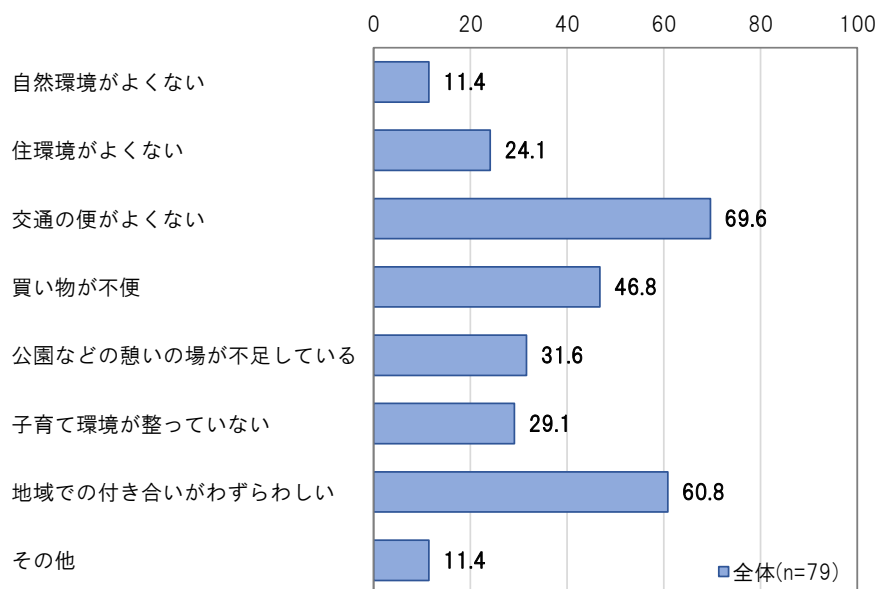
7. その他

(1) 丹波市での今後の居留意向

- ・丹波市での今後の居留意向については、「住み続けたい」が 78.9%と8割近くを占め、「住み続けたくない」は2割未満となっている。
- ・住み続けたくない理由では、「交通の便がよいくない」が69.6%と約7割を占めて最も高く、次いで「地域での付き合いがわずらわしい」(60.8%)、「買い物に不便」(46.8%)の順となっている。

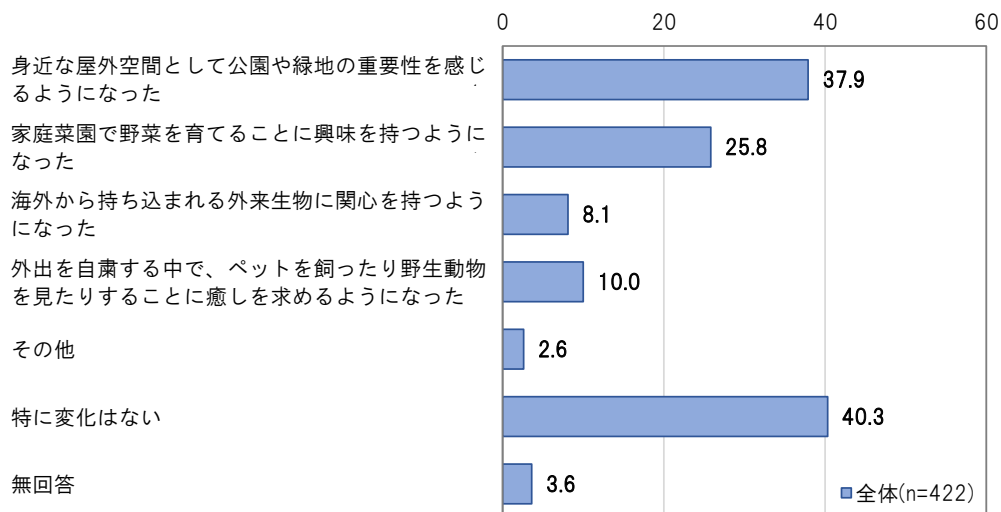


《住み続けたくない理由》



(2) 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識への変化

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う自然環境に関する意識への変化については、「特に変化はない」が40.3%と約4割を占めて最も高くなっている。
- 意識の変化があった人では、「身近な屋外空間として公園や緑地の重要性を感じるようになった」が37.9%と高く、次いで「家庭菜園で野菜を育てることに興味を持つようになった」(25.8%)の順となっている。

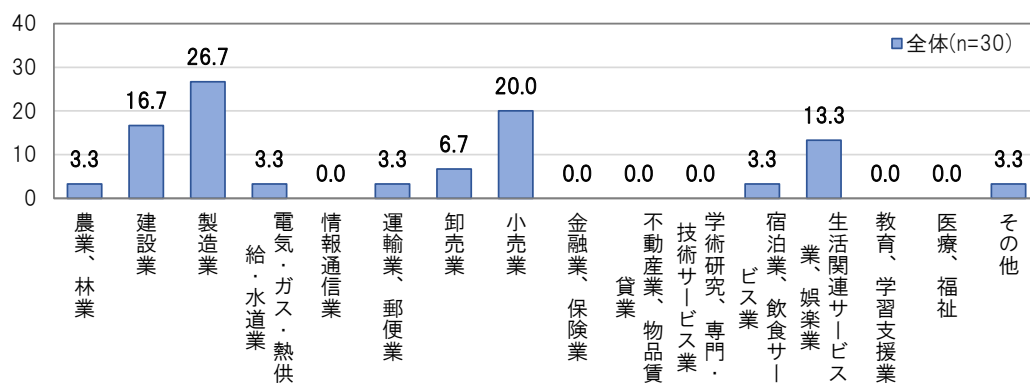


Ⅲ 事業所アンケート調査結果

1. 回答事業所の属性

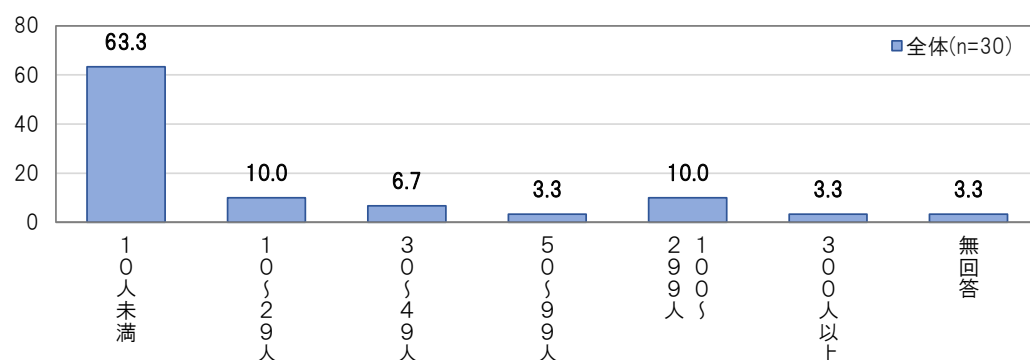
(1) 業種

- ・回答事業所の業種は、「製造業」が 26.7%と最も高く、次いで「小売業」(20.0%)、「建設業」(16.7%)、「生活関連サービス業、娯楽業」(13.3%)の順となっている。



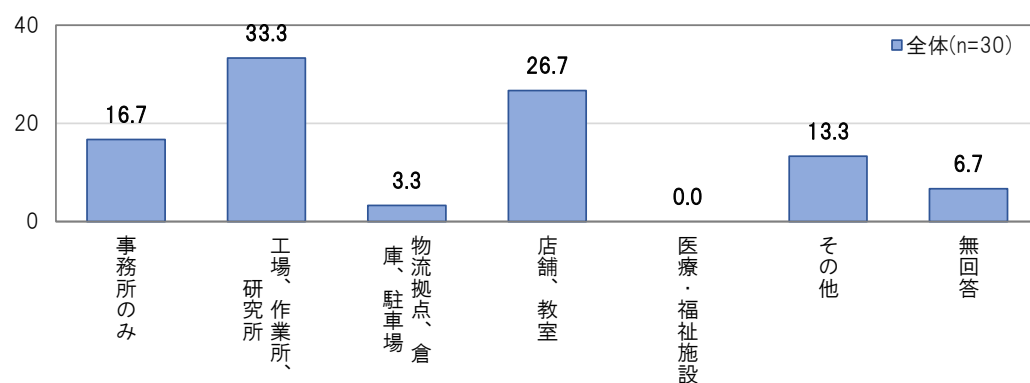
(2) 従業員規模

- ・回答事業所の従業員規模は、「10 人未満」が 63.3%と最も高く、次いで「10～29 人」及び「100～299 人」(10.0%)の順となっている。



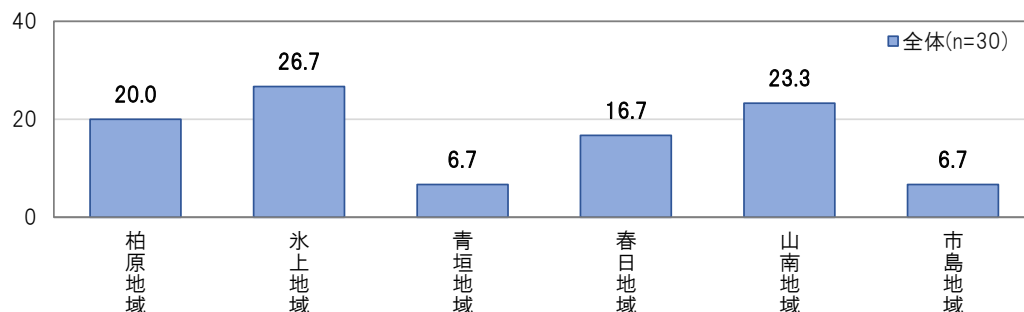
(3) 事業所の種別

- ・回答事業所の種別は、「工場、作業所、研究所」が 33.3%と最も高く、次いで「店舗、教室」(26.7%)、「事務所のみ」(16.7%)の順となっている。



(4) 所在地

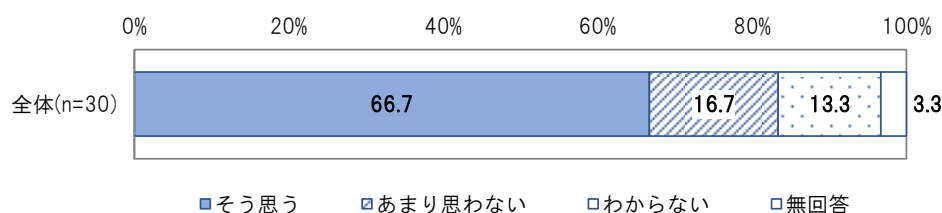
- ・回答事業所の所在地は、「氷上地域」が26.7%と最も高く、次いで「山南地域」(23.3%)、「柏原地域」(20.0%)の順となっている。



2. 環境問題に関する取り組みについて

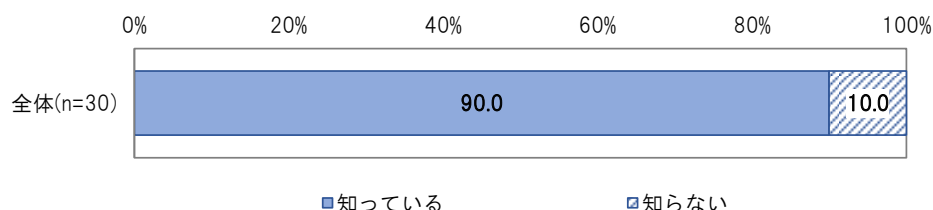
(1) 地球温暖化への対応は差し迫った問題であるとの認識

- ・地球温暖化への対応は差し迫った問題であるとの認識については、「そう思う」が66.7%と6割を超えて最も高くなっており、「そう思わない」は16.7%となっている。



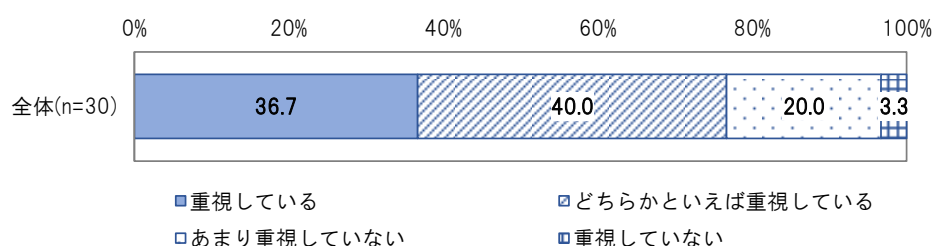
(2) 温室効果ガス排出量の削減目標の認知

- ・温室効果ガス排出量の削減目標の認知については、「知っている」が90.0%と9割を占めている。



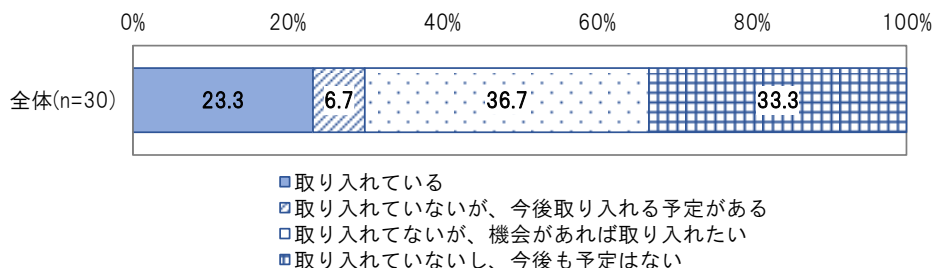
(3) 経営方針における環境への配慮の重視

- ・経営方針における環境への配慮の重視については、「どちらかといえば重視している」が40.0%と4割を占めて最も高く、「重視している」(36.7%)と合わせると、環境への配慮を重視している事業所が7割以上を占めている。一方で、『重視していない』(「あまり重視していない」+「重視していない」)が2割以上となっている。



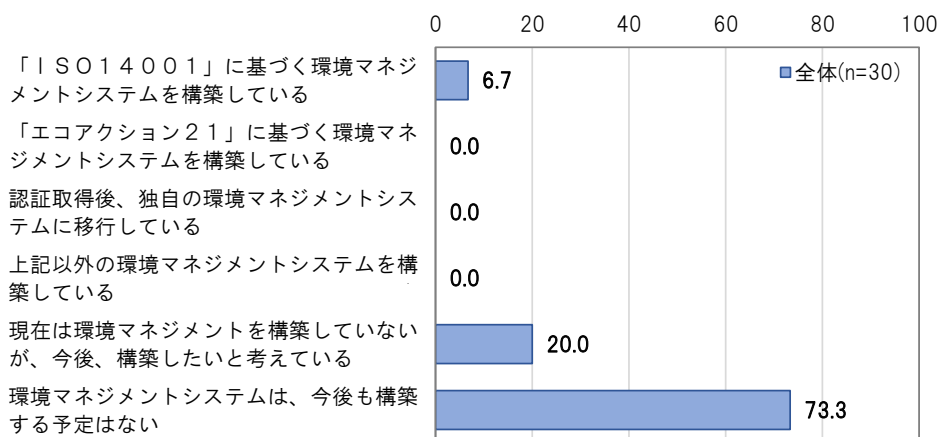
(4) 経営方針やCSRへのSDGsの取り入れ

- 経営方針やCSRにおけるSDGsの取り入れについては、「取り入れてないが、機会があれば取り入れたい」が36.7%と最も高くなっており、「取り入れている」は23.3%と2割程度となっている。



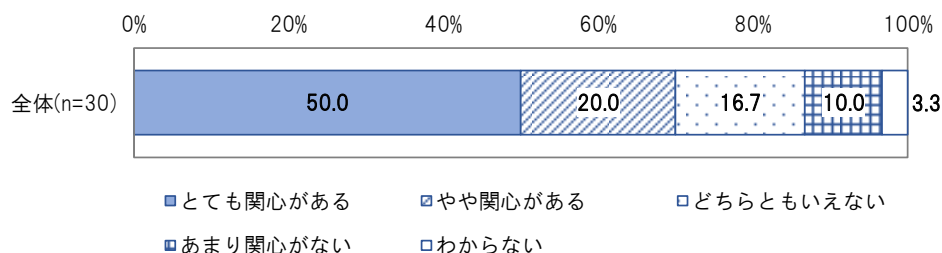
(5) 環境マネジメントシステム（EMS）の導入状況

- 環境マネジメントシステム（EMS）の導入状況については、「環境マネジメントシステムは、今後も構築する予定はない」が73.3%と大半を占めている。
- 次いで「現在は環境マネジメントを構築していないが、今後、構築したいと考えている」が約2割となっており、検討中の規格については「エコアクション21」との回答となっている。



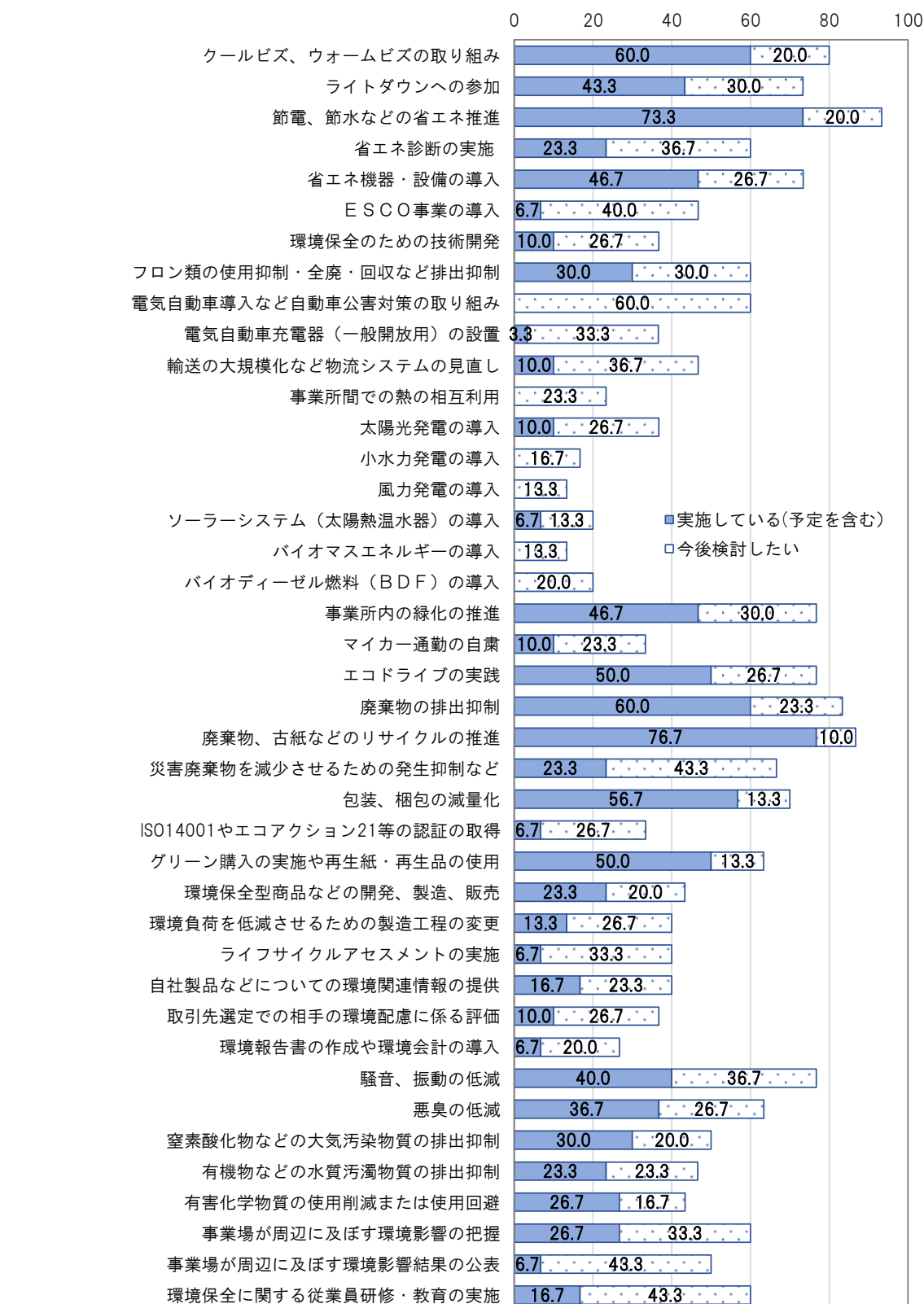
(6) 気候変動や適応策への関心

- 気候変動や適応策への関心については、「とても関心がある」が50.0%と半数を占めて最も高く、「やや関心がある」（20.0%）と合わせると、気候変動や適応策に関心のある事業所が7割を占めている。
- 一方で、「あまり関心がない」が1割となっている。



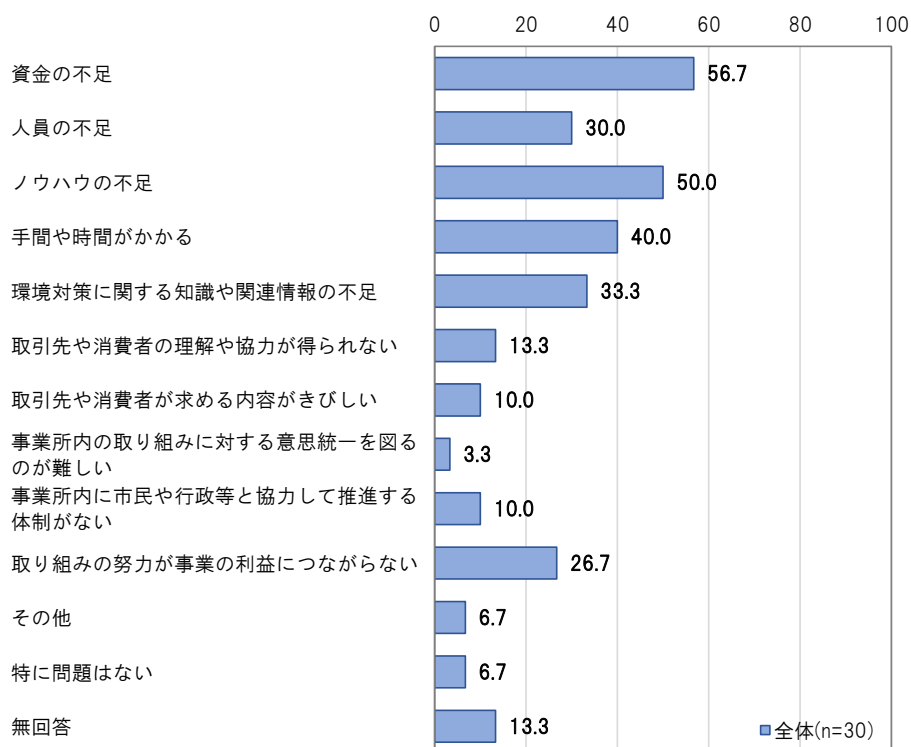
(7) 省エネやごみ減量等の取り組み状況

- ・現在実施している取り組みでは、「廃棄物、古紙などのリサイクルの推進」が76.7%と最も高く、次いで「節電、節水などの省エネ推進」(73.3%)、「クールビズ、ウォームビズの取り組み」(60.0%)の順となっている。今後検討したい取り組みでは、「電気自動車導入など自動車公害対策の取り組み」が60.0%と最も高くなっている。



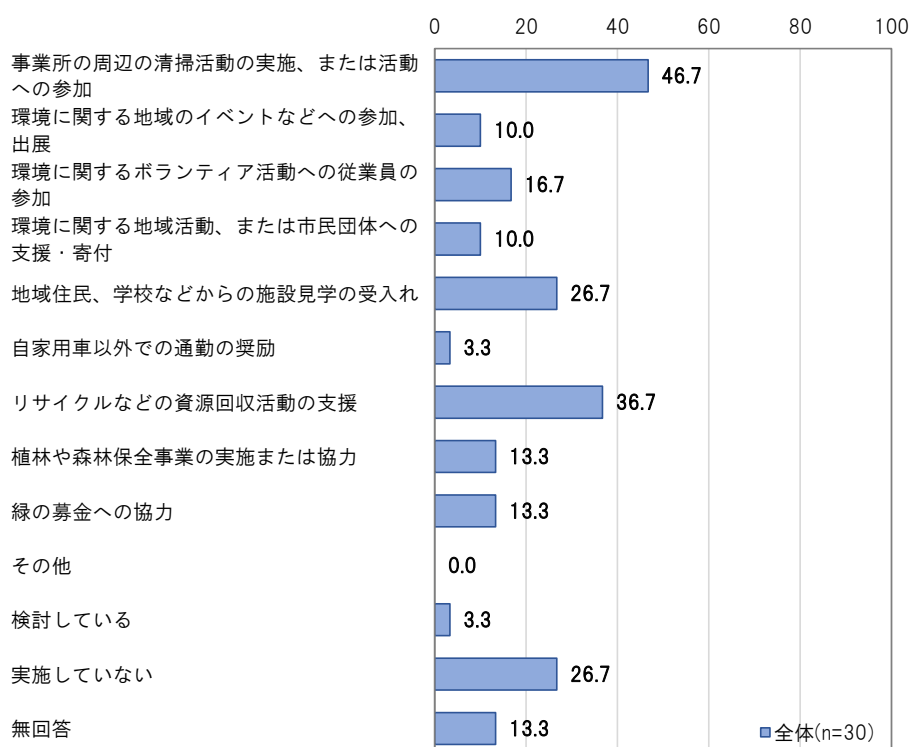
(8) 環境問題への取り組みを進める上での問題

- ・環境問題への取り組みを進める上での問題では、「資金の不足」が56.7%と半数を超えて最も高く、次いで「ノウハウの不足」(50.0%)、「手間や時間がかかる」(40.0%)の順となっている。



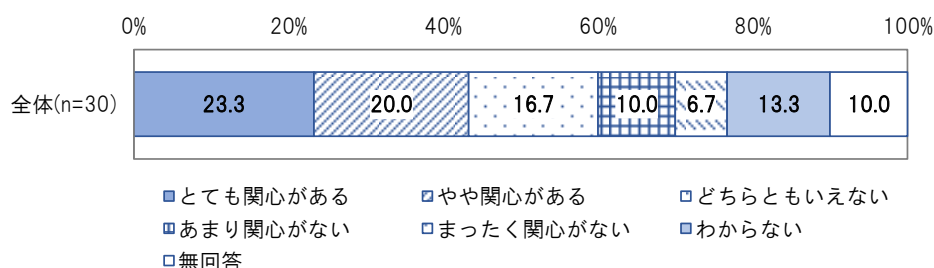
(9) 環境に関する社会貢献活動の実施状況

- ・環境に関する社会貢献活動では、「事業所の周辺の清掃活動の実施、または活動への参加」が46.7%と最も高く、次いで「リサイクルなどの資源回収活動の支援」(36.7%)となっている。



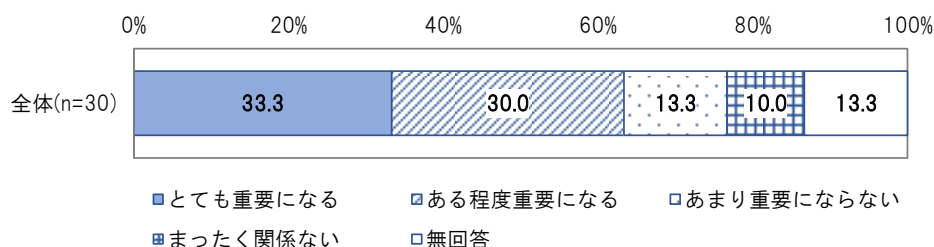
(10) エシカル消費への関心

- ・エシカル消費への関心では、「とても関心がある」が 23.3%と2割を超えて最も高く、「やや関心がある」(20.0%) と合わせると、関心のある事業所が4割以上を占めている。



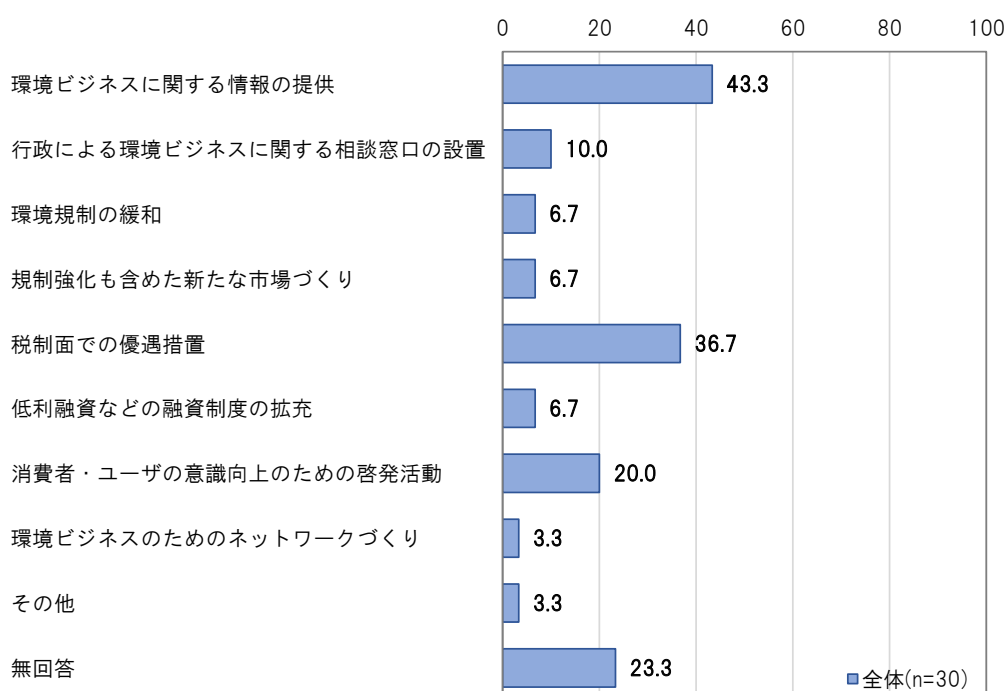
(11) 今後の経営における環境ビジネスの重要度

- ・今後の経営における環境ビジネスの重要度では、「とても重要になる」が 33.3%と3割を超えて最も高く、「ある程度重要になる」(30.0%) と合わせると、重要になると考える事業所が6割以上を占めている。



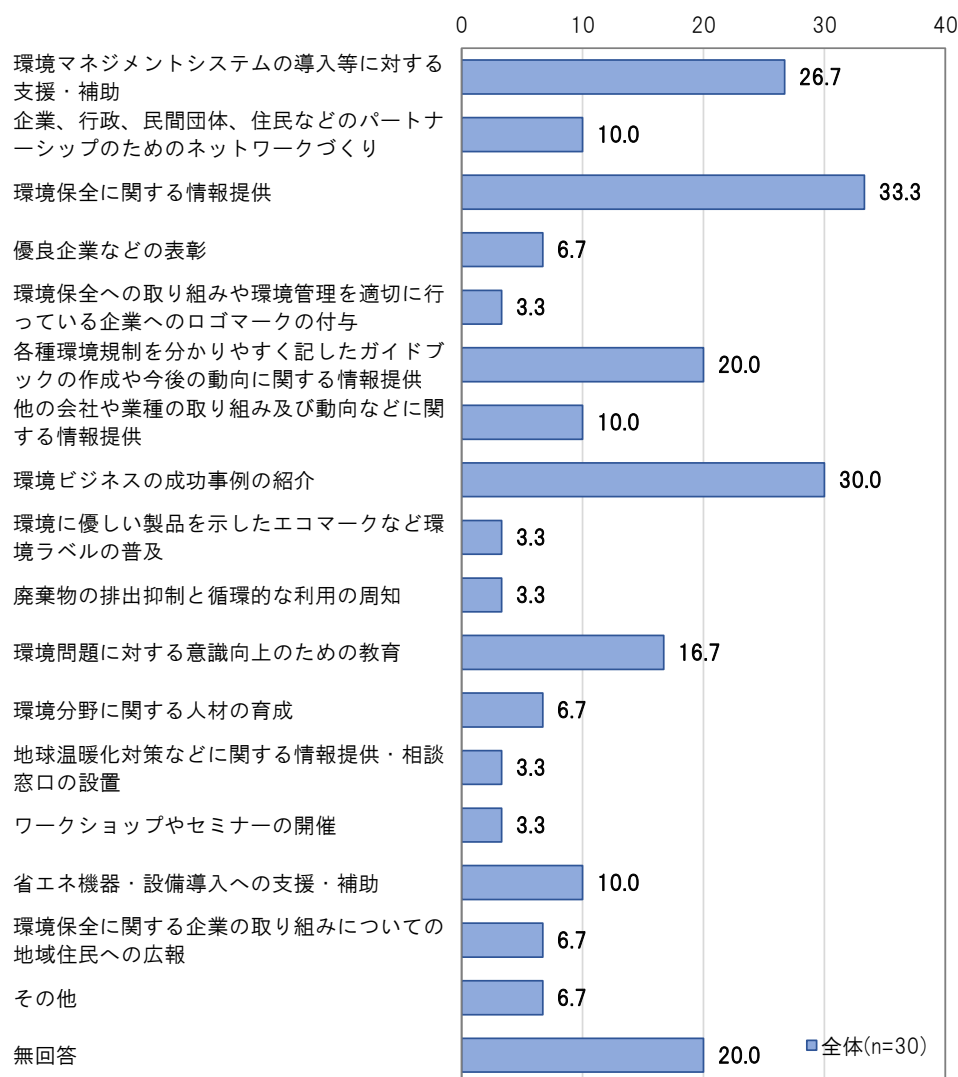
(12) 環境ビジネスの進展のために行政に望むこと

- ・環境ビジネスの進展のために行政に望むことでは、「環境ビジネスに関する情報の提供」が 43.3%と4割を超えて最も高く、次いで「税制面での優遇措置」(36.7%)、「消費者・ユーザの意識向上のための啓発活動」(20.0%) の順となっている。



(13) 環境問題への取り組みを進める上で市に支援して欲しいこと

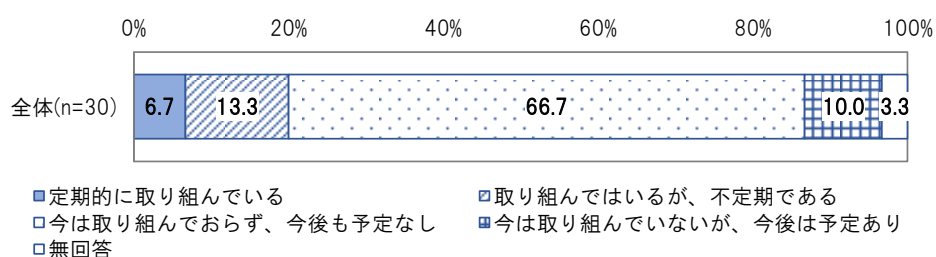
- 環境問題への取り組みを進める上で市に支援して欲しいことでは、「環境保全に関する情報提供」が 33.3%と3割を超えて最も高く、次いで「環境ビジネスの成功事例の紹介」(30.0%)、「環境マネジメントシステムの導入等に対する支援・補助」(26.7%)、「各種環境規制を分かりやすく記したガイドブックの作成や今後の動向に関する情報提供」(20.0%)の順となっている。



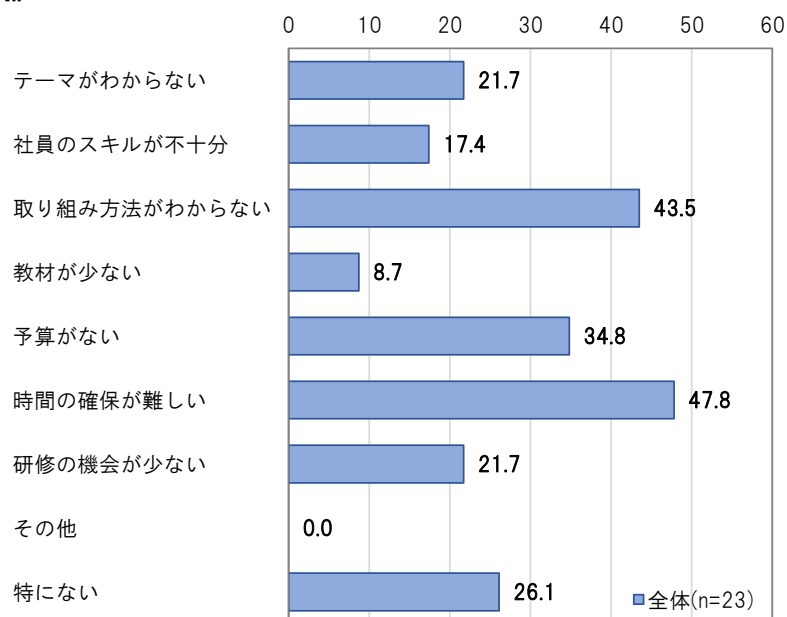
3. 環境教育・環境学習の実施状況について

(1) 環境教育・環境学習の取り組み状況

- ・環境教育・環境学習の取り組み状況については、「今は取り組んでおらず、今後も予定なし」が66.7%と6割を超えて最も高くなっており、『取り組んでいる』（「定期的に取り組んでいる」＋「取り組んではいるが、不定期である」）は2割となっている。
- ・取り組んでいる事業所（6事業所）の取り組みの内容については、「ごみの分別・リサイクル」が5事業所で最も多く、次いで「節電やクールビズ・ウォームビズ等の省エネ推進や再生可能エネルギーへの転換」（4事業所）、「環境汚染（大気・水質・土壌・化学物質）の対策」（3事業所）となっている。
- ・取り組んでいない事業所の理由については、「時間の確保が難しい」が47.8%と最も高く、次いで「取り組み方法がわからない」（43.5%）、「予算がない」（34.8%）の順となっている。

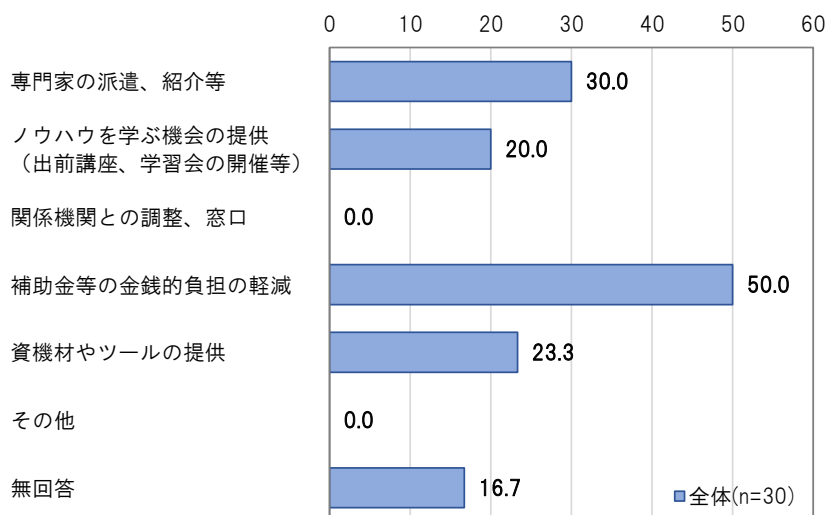


《取り組んでいない理由》



（２）環境教育を実施する上で市に支援して欲しいこと

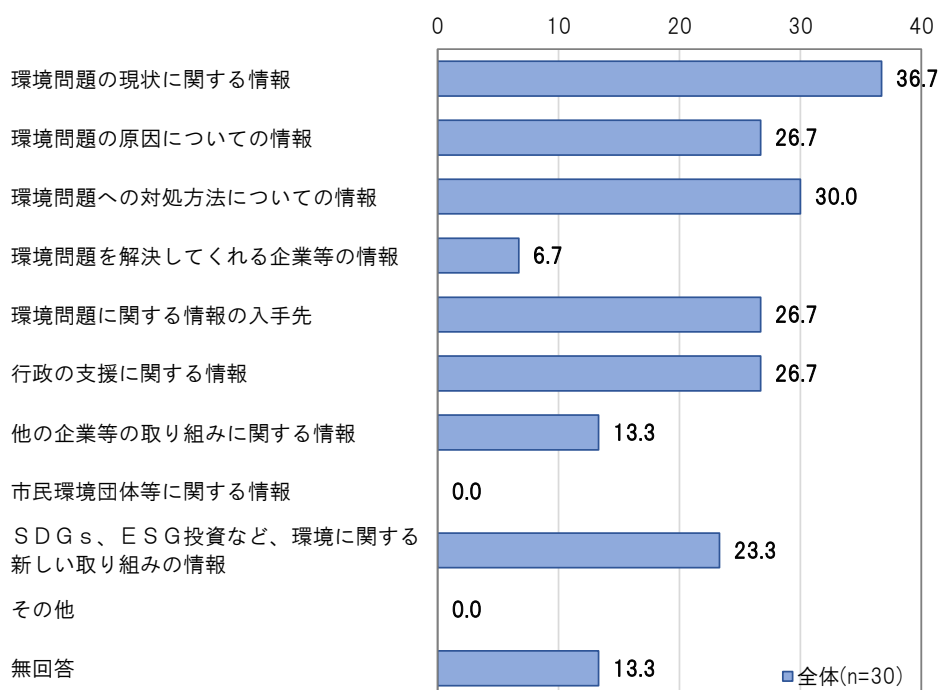
- 環境教育を実施する上で市に支援して欲しいことでは、「補助金等の金銭的負担の軽減」が50.0%と半数を占めて最も高く、次いで「専門家の派遣、紹介等」(30.0%)、「資機材やツールの提供」(23.3%)、「ノウハウを学ぶ機会の提供（出前講座、学習会の開催等）」(20.0%)の順となっている。



4. 情報の入手、発信について

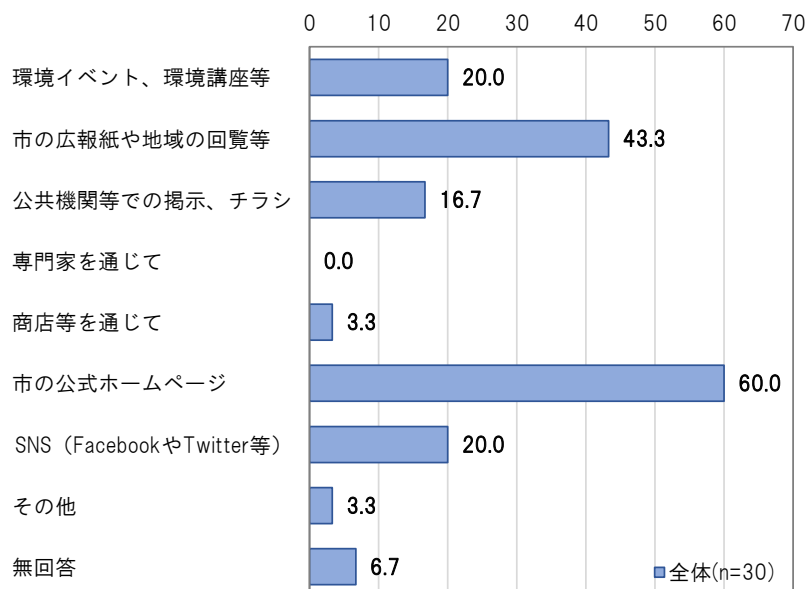
（１）市から発信される環境の情報として知りたい内容

- 市から発信される環境の情報として知りたい内容については、「環境問題の現状に関する情報」が36.7%と最も高く、次いで「環境問題への対処方法についての情報」(30.0%)、「環境問題の原因についての情報」及び「環境問題に関する情報の入手先」、「行政の支援に関する情報」(26.7%)の順となっている。



(2) 市から発信される環境の情報取得に使いたい手段

- 市から発信される環境の情報取得に使いたい手段については、「市の公式ホームページ」が60.0%と最も高く、次いで「市の広報紙や地域の回覧等」(43.3%)、「環境イベント、環境講座等」及び「SNS (Facebook や Twitter 等)」(20.0%) の順となっている。



(3) 環境への取り組みについての外部へ発信

- 環境への取り組みについての外部へ発信については、「発信していない」が73.3%と大半を占め、「発信している」は2割程度となっている。
- 発信している事業所(7事業所)の発信方法については、「ホームページ」が6事業所で最も多く、次いで「SNS (Facebook や Twitter 等)」や「環境報告書」での発信はそれぞれ1事業所となっている。

